

# **SigmaSystemCenter 2.1**

SSCコマンドリファレンス

- 第4版 -

# 目次

## 1. ssc コマンドについて

### 1.1. ssc コマンド

- 1.1.1. ssc コマンドの使用条件と補足
- 1.1.2. ssc コマンドの表記
- 1.1.3. 共通オプション
- 1.1.4. ssc コマンドの戻り値
- 1.1.5. ssc コマンドの注意事項

## 2. 構築用コマンド

### 2.1. ライセンス

- 2.1.1. ライセンスの追加
- 2.1.2. ライセンスの削除
- 2.1.3. ライセンスの表示

### 2.2. ユーザ

- 2.2.1. ユーザアカウントの作成
- 2.2.2. ユーザアカウントの削除
- 2.2.3. ユーザアカウント情報の表示

### 2.3. 環境設定

- 2.3.1. 環境設定の更新
- 2.3.2. 起動時収集の設定

### 2.4. サブシステム

- 2.4.1. サブシステムの追加

### 2.5. 収集

- 2.5.1. 収集

### 2.6. マシン

- 2.6.1. マシンの登録
- 2.6.2. マシン対象外
- 2.6.3. マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加
- 2.6.4. 割り当て解除、プールから削除
- 2.6.5. マシンの表示

### 2.7. マシンアカウント

- 2.7.1. アカウントの作成
- 2.7.2. アカウントの更新
- 2.7.3. アカウントの削除
- 2.7.4. アカウントの表示

## 2.8. グループ

- 2.8.1. グループの作成
- 2.8.2. グループ設定情報の更新
- 2.8.3. グループ設定の表示
- 2.8.4. マシンプロファイルの設定

## 2.9. ホスト

- 2.9.1. ホストの作成
- 2.9.2. ホストの更新
- 2.9.3. ホスト定義の表示

## 2.10. IP アドレス

- 2.10.1. IP アドレス情報の追加

## 2.11. ソフトウェア

- 2.11.1. ソフトウェアの追加

## 2.12. ストレージ

- 2.12.1. ストレージの追加
- 2.12.2. ディスクアレイのパスを表示
- 2.12.3. HBAの設定
- 2.12.4. HBAの解除

## 2.13. VLAN

- 2.13.1. VLAN の追加

## 2.14. ロードバランサ

- 2.14.1. ロードバランサの追加

## 3. 仮想環境の構成制御コマンド

### 3.1. 仮想マシンサーバの操作

- 3.1.1. 仮想マシンサーバの追加
- 3.1.2. 仮想マシンサーバの削除
- 3.1.3. 仮想マシンサーバのパスワード変更
- 3.1.4. 仮想マシンサーバの復旧の後処理
- 3.1.5. マシン退避

### 3.2. 仮想マシンの操作

- 3.2.1. 仮想マシンの構成変更
- 3.2.2. 仮想マシンの移動 (Migrate)
- 3.2.3. 仮想マシンの移動 (Move)
- 3.2.4. マシン退避 (ホスト指定)
- 3.2.5. 仮想マシンの作成
- 3.2.6. テンプレートの作成
- 3.2.7. 構成変更
- 3.2.8. スナップショットの作成

### 3.3. 配置制約

- 3.3.1. 配置制約の設定
- 3.3.2. 配置制約の削除
- 3.3.3. 配置制約の有効化
- 3.3.4. 配置制約の無効化
- 3.3.5. 配置制約に従った配置

### 3.3.6. 配置制約の表示

## 3.4. データストア

### 3.4.1. データストアの表示

## 4. 保守コマンド

### 4.1. 運用ログ

#### 4.1.1. 運用ログの表示

### 4.2. ポリシー

#### 4.2.1. ポリシーをエクスポートする

#### 4.2.2. ポリシーをインポートする

### 4.3. メンテナンス

#### 4.3.1. 構成情報のメンテナンス

#### 4.3.2. 配布履歴の削除

#### 4.3.3. マシンステータスの更新

# 1. ssc コマンドについて

本章では、SigmaSystemCenter の ssc コマンドについて説明します。

## 1.1. ssc コマンド

ssc コマンドラインツールを使用すると、従来、Web コンソールから個々に行う必要があった、グループ・ホストの作成や各種設定をBAT ファイルからコマンドを実行することにより、一括で行うことができます。これにより、大規模環境における構成時の作業負担を軽減することができます。また、仮想環境での構成制御の設定など、ssc コマンドラインのみサポートしている機能もあります。

ssc コマンドでは、以下の機能が実行できます。

コマンド (機能)	サブコマンド	概要
create (作成)	user ※	ユーザアカウントを作成します。
	group	グループを作成します。
	host	グループにホストを作成します。
	machine	仮想マシンを作成し、グループで稼働します。
	template	テンプレートを作成します。
	snapshot ※	スナップショットを作成します。
add (追加)	license	ライセンスを追加します。
	manager	サブシステムを追加します。
	ipaddress	グループのホストにIPアドレス (ネットワーク) を追加します。
	software	グループ (グループ / モデル)、またはホストのソフトウェア配布ポイントにソフトウェアを追加します。
	storage	グループのホストにディスクアレイのディスクボリュームを追加します。
	vlan	グループにVLANを追加します。グループに追加するNIC番号、スイッチ、およびVLANを指定します。
	lb	グループにロードバランサを追加します。
	vmserver	Datacenterに仮想マシンサーバを追加します。
update (更新)	environment	環境設定を行います。
	group	グループの設定内容を編集、または更新します。
	host	ホストの設定内容を編集、または更新します。
	vmproperty	仮想マシンの一括編集を行います。
delete (削除)	license	ライセンスを削除します。
	user ※	ユーザアカウントを削除します。
	vmserver	Datacenterから仮想マシンサーバを削除します。
	history	ソフトウェアの配布履歴を削除します。
collect (収集)	—	指定した対象の情報を収集します。
register (登録)	machine	リソースグループ、もしくはラックにマシンを登録します。
unregister (対象外)	machine	リソースグループ、もしくはラックからマシンを対象外にします。

assign (マシンの割り当て)	machine	リソース割り当て、マスタマシン登録、もしくはプールに追加を行います。
set (関連付け)	hba	HBAをディスクアレイに関連付けます。
	profile	マシンプロファイルを設定します。
release (割り当て解除、プールから解除、関連解除)	machine	マシンの割り当て解除、プールから削除を行います。
	hba	HBAをディスクアレイから関連解除します。
change-passwd (パスワード変更)	—	仮想マシンサーバのパスワードを変更します。
migrate (仮想マシンの移動)	machine	仮想マシンを移動 (migrate) します。
move (仮想マシンの移動)	machine	仮想マシンを移動 (move) します。
vmop (配置制約)	set-rule	仮想マシンの配置制約を設定します。
	delete-rule	仮想マシンの配置制約を削除します。
	enable-rule	仮想マシンの配置制約設定を有効化します。
	disable-rule	仮想マシンの配置制約設定を無効化します。
	apply-rule	仮想マシンを制約配置に従って配置します。
	show-rule	仮想マシンの配置制約設定を表示します。
recover (復旧)	machine	仮想マシンサーバを復旧します。
evacuate (退避)	machine	仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバへ退避します。
	host	仮想マシンサーバ上の仮想マシンを、他の仮想マシンサーバへ退避します。(ホスト指定)
machine-account (作成、更新、削除、表示)	create	マシンアカウントを作成します。
	update	マシンアカウントを更新します。
	delete	マシンアカウントを削除します。
	show	マシンアカウント情報を表示します。
export (エクスポート)	policy	ポリシー情報をXMLファイルに出力します。
import (インポート)	policy	XMLファイルからポリシー情報を取り込みます。
maintenance (保守)	cmdb	構成情報データベースのメンテナンスを行います。
startup-collect-mode (システム設定)	—	起動時収集を設定します。
show (表示)	license	ライセンスを表示します。
	user ※	ユーザアカウント情報を表示します。
	group	グループの設定内容を表示します。
	host	ホストの設定内容を表示します。
	machine ※	システムリソースのマシンを一覧表示します。
	log	運用ログを表示します。
	diskarraypath	ディスクアレイのパスを表示します。
	datastore ※	データストア一覧を表示します。
reconfigure	machine	仮想マシンの再構成を行います。
set-machine-status ※ (マシンステータス更新)	—	指定したマシンのステータスを更新します。

※アップデートモジュール（SSC0201-0017）で機能が追加されました。

### 1.1.1. ssc コマンドの使用条件と補足

ssc コマンドを使用するには、以下の条件を満たしている必要があります。

- ssc コマンドは、管理サーバ上のOS (Windows Server 2003 など) で有効な administrators 権限を持つユーザで実行できます。

---

**注：**ユーザーアカウント制御 (UAC: User Account Control) が有効な場合、管理者モードにて実行する必要があります  
(例えば、コマンドプロンプトを [コマンドプロンプトのショートカット] を右クリックし、“管理者として実行”にて開き、ssc コマンドを起動するなど)。

- 
- データベースのバックアップについて  
ssc コマンドでは、ホストの一括設定などを行うことができますが、例えば、事前検証なしでBAT コマンドにより自動実行された場合など、コマンド指定が間違っていた場合、意図していない設定が行われる可能性があります。  
コマンド実行前の状態に復旧できるよう、事前にデータベースのバックアップを採取してください。

---

**関連情報：**バックアップ方法については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「9 バックアップ・リストア」を参照してください。

---



## 1.1.2. ssc コマンドの表記

以降の ssc コマンドの機能説明では、以下の表記を使用します。

- [ ] はオプションを示します。
- | はどちらか選択することを示します。
- <> は、指定必須のオプションです。
- () は、省略形を示します。  
例) “-error (-e)” の場合、-e は -error の省略形

## 1.1.3. 共通オプション

各 ssc コマンドに共通して使用できるオプションです。  
コマンドラインから ssc を起動する際、引数を省略するとヘルプを表示します。

### [構文]

```
ssc [option1] [option2] command [subcommand...]  
[parameter...] [cmd option [option parameter]...]
```

### [引数 / オプション]

[option1] には、以下が使用できます。

-v	コマンド実行状況などを出力しながら動作させるモード
--verbose	''
-q	メッセージを何も出力しないで動作させるモード (バッチ実行に適しています)
--quiet	''
-d	デバッグ用メッセージを出力しながら動作させるモード
--debug	''

[option2] には、以下が使用できます。

-h	コマンドヘルプを出力します。 次の引数に入力があった場合、それをキーに絞り込んだコマンドについて出力します。対象コマンドがなかった場合、全コマンドのヘルプを出力します。
--help	''
help	''
--ver	バージョン情報を出力します。
--version	''

[cmd oprion] には、以下が使用できます。

-h	コマンドごとのパラメータ説明 (ヘルプ) を出力します。
-help	''

## 1.1.4. ssc コマンドの戻り値

ssc コマンドの実行結果は、コマンドの戻り値により判断できます。  
ssc コマンドの戻り値は以下のとおりです。

値	成功/失敗	原因
0	成功	
1	失敗	コマンドフォーマットが異常です (パラメータ不足など)。
2	失敗	Administrators権限がないユーザで実行しています。
3	失敗	パラメータチェックエラー (指定リソースが存在しないなど)
4	失敗	SigmaSystemCenter構成情報更新不可
5	失敗	起動したアクションシーケンスのジョブ履歴取得不可
6	失敗	SigmaSystemCenter接続エラー
7	失敗	アクションシーケンスの実行に失敗しました (アクションシーケンス内でエラーが発生)。
10	失敗	上記以外のエラー (システムエラーなど)

## 1.1.5. ssc コマンドの注意事項

- リソース名 (マシン名、ホスト名、グループ名など) が、“-” (ハイフン) から始まる場合各コマンドのリソース名を指定する箇所にて、“-” (ハイフン) から始まる名前が存在した場合、リソース名、もしくはコマンドのオプション指定が、正しく判断されない場合があります。“-” (ハイフン) から始まるリソースが存在した場合、リソース名を変更してコマンドを実行するか、Web コンソールから操作を行うようにしてください。
- Path、および GroupPath指定について  
操作の対象リソースに対する、[運用]、[リソース]、あるいは [仮想] ビューにおける階層指定をパスとして指定します。  
(Webコンソールでパスを確認することができます)

指定例) 対象はすべて同じマシン (VM1)

[運用] ビューの場合 operations:/category1/group1/vmmodel/VM1

[リソース] ビューの場合 resource:/vmgroup/VM1

[仮想] ビューの場合 virtual:/VC1/DataCenter1/VMS1/VM1

---

### 注:

- [リソース] ビューのパスを指定する場合、root直下のマシンは指定できません。  
マシン登録コマンド (register machine) などを利用して、グループ配下に登録してください。  
例) ssc register machine /NewGroup / -e -n
- [リソース] ビューのパスを指定する場合、一部のコマンド (collect group) を除いて  
スマートグループは指定できません。

- 
- メッセージ内のリソース名について  
ホスト名を指定して実行したコマンドでも、ジョブ進捗状況やメッセージ内ではそのホストのリソース名 (マシン名) に変更されて、表示される場合があります。

## 2. 構築用コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の構築に関するコマンドについて記載します。

### 2.1. ライセンス

#### 2.1.1. ライセンスの追加

ライセンスを追加します。  
最初にエディションライセンスを登録してください。  
設定を有効にするには、SystemProvisioningを再起動する必要があります。  
ただし、ターゲットライセンスの追加のみの場合には、再起動は必要ありません。

##### [構文]

```
ssc add license LicenseKey
```

##### [引数 / オプション]

<i>LicenseKey</i> (必須)	対象となるライセンスキーを指定します。
---------------------------	---------------------

##### [構文例]

```
>ssc add license XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```

#### 2.1.2. ライセンスの削除

ライセンスを削除します。  
ターゲットライセンスから削除し、  
最後にエディションライセンスを削除して下さい。

##### [構文]:

```
ssc delete license LicenseKey
```

##### [引数 / オプション]:

<i>LicenseKey</i> (必須)	対象となるライセンスキーを指定します。
---------------------------	---------------------

##### [構文例]:

```
>ssc delete license XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX
```

### 2.1.3. ライセンスの表示

ライセンスを表示します。

[構文]:

```
ssc show license
```

[引数 / オプション]:

なし

構文例:

```
>ssc show license
```

## 2.2. ユーザ

### 2.2.1. ユーザアカウントの作成

ユーザアカウントを作成します。

#### [構文]

```
ssc create user UserName Password [-permission AuthorityType] [-role RoleName...] [-description Description]
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。 入力できる文字数は32文字以内です。 使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 * + , / : ; < = > ? ¥   [ ]
<i>Password</i> (必須)	パスワードを指定します。 入力できる文字数は128文字以内です。 使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。
[-permission <i>AuthorityType</i> ]	権限を指定します。 ユーザの権限は、"Administrator"、"Operator"、"Observer" の3種類があります。 省略した場合、"Administrator" として作成します。
[-role <i>RoleName...</i> ]	ロールを指定します (複数指定可)。 ユーザの権限と同じ権限の割り当て可能なロールを指定してください。
[-description <i>Description</i> ]	ユーザの説明を入力します。 入力できる文字数は128文字以内です。

#### [構文例]

```
>ssc create user User01 xxxxxx -permission Administrator  
>ssc create user User01 xxxxxx -role admin-users  
>ssc create user User01 xxxxxx -description "User01 is Administrator."
```

### 2.2.2. ユーザアカウントの削除

ユーザアカウントを削除します。

#### [構文]

```
ssc delete user UserName
```

#### [引数/オプション]

<i>UserName</i> (必須)	削除するユーザ名を指定します。
-------------------------	-----------------

#### [構文例]

```
>ssc delete user User01
```

## 2.2.3. ユーザアカウント情報の表示

ユーザアカウント情報をCSV形式で一覧表示します。

### [構文]

```
ssc show user
```

### [引数/オプション]

なし

### [構文例]

```
>ssc show user
```

### [表示例]

```
>ssc show user
#UserName, Permission, Role, Description
Admin2, Administrator, AdminRole1, Administrators member2
Admin3, Administrator, AdminRole1, Administrators member3
Observer1, Observer, ObRole1, Observers member1
User-Admin1, Administrator, AdminRole1 Role1, Administrators member1
User-Ope1, Operator, Role2, Operators member1
User-Ope2, Operator, Role2, Operators member2
```

## 2.3. 環境設定

### 2.3.1. 環境設定の更新

環境設定を行います。

#### [構文]

```
ssc update environment Key Value
```

#### [引数/オプション]

Key (必須)	以下のKeyのうち、設定する項目を指定します。 「VMSDefaultCapacity」: 仮想マシンサーバのキャパシティ値 「1」以上「100000」以下で指定してください。 「VMDefaultCost」: 仮想マシンのコスト値 「1」以上「1000」以下で指定してください。 「VMSRootPassword」: 仮想マシンサーバのrootパスワード 「ULogSize」: 運用ログの最大出力件数 「1000」以上で指定してください。 「DLogSize」: デバックログの最大出力サイズ(MB) 「1」以上「16」以下で指定してください。 「DLogLevel」: デバックログのレベル 「0」以上「7」以下で指定してください。 「0」: エラーログを取得します。 「1」: 警告ログを取得します。 「2」: 情報ログを取得します。 「3」~「7」: トレースログを取得します。(トレースレベル1~5)
Value (必須)	Keyで指定した項目の設定値を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc update environment vmsdefaultcapacity 1  
>ssc update environment vmdefaultcost 100  
>ssc update environment vmsrootpassword xxxxxx
```

### 2.3.2. 起動時収集の設定

PVMサービス起動時の収集のオン / オフを指定します。

#### [構文]

```
ssc startup-collect-mode < on | off >
```

#### [引数/オプション]

< on   off > (必須)	PVMサービス起動時に実行する全収集をオンにします。 PVMサービス起動時に実行する全収集をオフにします。
----------------------	--

#### [構文例]

```
>ssc startup-collect-mode on  
>ssc startup-collect-mode off
```

## 2.4. サブシステム

### 2.4.1. サブシステムの追加

サブシステムを追加します。

#### [構文]

```
ssc add manager Type [-name HostName] [-account Account]  
[-port PortNumber] [-url URL] [-p Password]
```

#### [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	以下の <i>Type</i> のうち、追加するサブシステムを指定します。 「dpm」: Webサーバ for DPM (Win/Linux) 「virtualcenter」: VMWare vCenter Server 「esxi」: ESXi 「xen」: Citrix XenServer Pool Master 「hyper-v」: Hyper-V 「hyper-v-cluster」: Hyper-V Cluster
[-name <i>HostName</i> ]	ホスト名、またはIPアドレスを指定します。 <i>URL</i> を入力している場合、自動生成されるため、省略することができます。
[-account <i>Account</i> ]	接続対象のアカウント名、またはドメイン名を指定します。
[-port <i>PortNumber</i> ]	接続対象のポート番号を指定します。
[-url <i>URL</i> ]	<i>URL</i> を指定します。 <i>HostName</i> を指定している場合、 自動生成されるため、省略することができます。
[-p <i>Password</i> ]	接続対象に登録されているパスワードを指定します。

- *Type*に「esxi」、「hyper-v」を指定した場合、オプション (-name、-account、-port、-url、-p) は指定できません。
- *Type*に「dpm」を指定した場合、-name、-pは省略することはできません。
- *Type*に「virtualcenter」、「xen」を指定した場合、-account、-pは省略することはできません。

#### [構文例]

```
>ssc add manager virtualcenter -p Password -account account  
-port PortNumber -name HostName -url URL  
>ssc add manager dpm -name HostName -port PortNumber -p Password  
>ssc add manager esxi
```



## 2.5. 収集

### 2.5.1. 収集

サブシステムの収集を行います。

#### [構文]

```
ssc collect Type [-name Name...] [-uuid Uuid] [-path Path]  
[-target < basic | sensor | software >]  
[-priority < high | middle | low >]
```

#### [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	以下のうち、指定した対象の情報を収集します。 「all」: 全サブシステム 「vms」: 仮想サーバ 「machine」: 物理マシン、仮想マシンサーバ、仮想マシン 「group」: -pathで指定したグループ配下のマシン
[-name <i>Name...</i> ]	<i>Type</i> が「vms」、「machine」の場合に有効です。 「vms」: サブシステムのホスト名 (又はIPアドレス) を指定します。 「machine」: マシン名を指定します。 複数指定することができます。
[-uuid <i>Uuid</i> ]	対象のUUIDを指定します。 <i>Type</i> が「machine」の場合に有効です。 複数指定可能です。
[-path <i>Path</i> ]	<i>Type</i> が「all」以外の時、有効です。 収集対象までの各ビューからのフルパスを指定し、収集します。 「machine」 仮想ビュー: virtual:/VC1/DataCenter/VMServer1/VM001 リソースビュー: resource:/Group1/VM001 「vms」 仮想ビュー: virtual:/VC1/DataCenter/VMServer1 リソースビュー: resource:/Group1/VMServer1 「group」 仮想ビュー: virtual:/VC1/DataCenter リソースビュー: resource:/Group1
[-target <basic   sensor   software>]	<i>Type</i> が「machine」、または「group」の時のみ有効。 収集を行う区分を選択します。 「basic」: 基本情報を収集します。 「sensor」: センサの瞬間値を収集します。 「software」: ソフトウェア情報を収集します。
[-priority <high   middle   low>]	<i>Type</i> が「machine」、または「group」の時のみ有効。 収集処理の優先度を選択します。

#### [構文例]

```
>ssc collect all  
>ssc collect vms -name 192.168.1.1  
>ssc collect vms -path virtual:/Manager/DataCenter/VMServer
```

## 2.6. マシン

### 2.6.1. マシンの登録

マシンをリソースグループ、またはラックに登録します。

#### [構文]

```
ssc register machine GroupName MachineName... [-e] [-n]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンを登録するリソースグループ、またはラックを指定します。 リソースグループ、またはラックまでのパスを指定します。
<i>MachineName...</i> (必須)	対象のマシンを指定します。 運用グループで稼働、または待機中のマシンは指定できません。 複数指定することができます。
[-e]	<i>GroupName</i> で指定したグループを作成します。
[-n]	[リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にあるリソースを移動します。 [リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にあるリソースをすべて指定する場合、 <i>MachineName</i> は、"/" を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc register machine Group1 machine01  
>ssc register machine Group1/Rack01 machine02 machine03  
>ssc register machine Group1/Group2 machine04  
>ssc register machine Group1/Group2/Group3 machine05 -e  
>ssc register machine Group1 / -n
```

### 2.6.2. マシン対象外

マシンをリソースグループ、もしくはラックから対象外にします。

#### [構文]

```
ssc unregister machine GroupName MachineName...
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象外にするマシンが登録されているリソースグループ、またはラックを指定します。 リソースグループ、またはラックまでのパスを指定します。 "/" のみを指定した場合、[リソース] ツリーの [マシン] アイコン直下にある 管理対象マシンが対象となります。
<i>MachineName...</i> (必須)	対象のマシン名を指定します。 運用グループで稼働、または待機中のマシンは指定できません。 複数指定することができます。

#### [構文例]

```
>ssc unregister machine / machine01  
>ssc unregister machine Group1 machine02  
>ssc unregister machine Group1/Rack01 machine03 machine04  
>ssc unregister machine Group1/Group2 machine05
```

## 2.6.3. マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加

マシンの割り当て、マスタマシン登録、プールに追加を行います。

### [構文]

```
ssc assign machine GroupName [MachineName...] [<-sharedpool | -master |  
-addpool>] [-host HostName]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加を行うグループを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 カテゴリ、グループは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[ <i>MachineName...</i> ]	マシンの割り当て、マシン登録、プールに追加を行うマシン名を指定します。 <i>MachineName</i> を省略した場合、グループプールのマシンが対象になります。 [-sharedpool]、[-master]、[-addpool] を指定している場合、省略することはできません。 複数指定することができます。
[-sharedpool]	共通プールのマシンをグループに追加する場合、指定します。 [-sharedpool] を省略した場合、グループプールのマシンをグループに追加します。 [-master]、および [-addpool] と同時に指定できません。
[-master]	マスタマシンの登録を行う場合、指定します。 [-master] を省略した場合、グループプールのマシンをグループに追加します。 [-sharedpool]、および [-addpool] と同時に指定できません。
[-addpool]	プールにマシンを追加する場合、指定します。 [-sharedpool]、[-master]、および [-host <i>HostName</i> ] と同時に指定できません。
[-host <i>HostName</i> ]	対象のマシンが稼動するホスト名を指定します。 [-master] を指定した場合、省略することはできません。 [-addpool] と同時に指定できません。

### [構文例]

```
* スケールアウト  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001  
* リソース割り当て(グループプール)  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine001  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 machine002 -host host02  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 -host03  
* リソース割り当て(共通プール)  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 -sharedpool machine001  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 -sharedpool machine002 -host host02  
* マスタマシン登録  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 -master machine001 -host host001  
* プールに追加  
>ssc assign machine Category/Group1/Model001 -addpool machine001 machine002
```

## 2.6.4. 割り当て解除、プールから削除

割り当て解除、プールから削除を行います。

### [構文]

```
ssc release machine GroupName <[HostName...] [-sharedpool] [-force] | -del  
MachineName...>
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	割り当て解除、プールから削除するマシンのグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
[ <i>HostName...</i> ]	対象マシンが稼動しているホスト名を指定します。 <i>HostName</i> を省略した場合、稼動しているマシン1台が自動選択され、 グループのプールに戻します。 [-sharedpool]、および [-force] が指定されている場合、 省略することはできません。 -delと同時に指定することはできません。 複数指定することができます。
[-sharedpool]	稼動しているマシンをグループから共通プールに戻します。 [-sharedpool] を省略した場合、グループのプールに戻します。 [ <i>HostName...</i> ] は省略することはできません。 -delと同時に指定することはできません。
[-force]	データベースを操作して、強制的に割り当て解除を行います。 [-force] を省略した場合、ジョブを実行します。 [ <i>HostName...</i> ] は省略することはできません。また、複数のホスト名 は指定できません。 [-sharedpool]、および -del と同時に指定はできません。
-del	対象マシンをプールから削除する場合、指定します。 [ <i>HostName...</i> ]、[-sharedpool]、および [-force] と同時に 指定はできません。
<i>MachineName...</i>	プールから削除するマシン名を指定します。 -delを指定した場合、省略することはできません。 [ <i>HostName...</i> ]、[-sharedpool]、および [-force] と同時に 指定はできません。

### [構文例]

スケールイン

```
>ssc release machine Category/Group1
```

割り当て解除(グループプール)

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 host002
```

割り当て解除(共通プール)

```
>ssc release machine Category/Group1 host003 host004 -sharedpool
```

プールから削除

```
>ssc release machine Category/Group1 -del machine001 machine002
```

割り当て解除(強制:グループプール)

```
>ssc release machine Category/Group1 host001 -force
```

割り当て解除(強制:共通プール)

```
>ssc release machine Category/Group1 host002 -sharedpool -force
```

## 2.6.5. マシンの表示

マシン情報を表示します。

### [構文]

```
ssc show machine [-ms [< on | off >]] [-vms [VMSName]] [-vm [VMName]] [-perf]
[-resource] [-vertical]
```

### [引数/オプション]

[-ms [< on   off >]]	表示対象となるマシンの管理状態を指定します。 -msに "on" を指定した場合、管理中のマシンを表示します。 -msに "off" を指定した場合、管理外のマシンを表示します。 "on"または"off"を省略した場合、すべてのマシンを表示します。
[-vms [VmsName]]	指定した仮想マシンサーバの仮想マシン情報を表示します。 仮想マシンサーバ名を省略すると、全仮想マシンサーバが対象となります。 仮想マシンサーバ名を指定した場合は、配下の仮想マシン(VM)一覧及び、 テンプレート情報を表示します。
[-vm [VmName]]	指定した仮想マシンの情報を表示します。 仮想マシン名を省略すると、全仮想マシンが対象となります。
[-perf]	性能情報(パフォーマンス)を表示します。 仮想マシン、仮想マシンサーバの性能情報を表示します。 最新の情報を取得するため、時間がかかる場合があります。
[-resource]	性能情報(仮想リソース)を表示します。 仮想マシンサーバ、仮想マシンのみ情報が取得可能です。 最新の情報を取得するため、時間がかかる場合があります。
[-vertical]	表示形式を変更します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。

### [構文例]

```
>ssc show machine -ms
>ssc show machine -ms on
>ssc show machine -ms on -perf
>ssc show machine -vms HYPER-V222 -perf
>ssc show machine -vertical
>ssc show machine -vm -resource
```

### [表示例]

```
>ssc show machine -ms on
#Name, ManagedStatus, Uuid, MacAddress, Type, SummaryStatus, RunningStatus, ExecuteStatus
"192.168.10.174", "Managed", "80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162", "00:30:13:F1:01:
"MasterMachine", "Managed", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "00:50:56:84:78:F
"MasterVM", "Managed", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50:56:84:09:86", "V
```

```
>ssc show machine -ms on -vms 192.168.10.174 -resource
[VMServer]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, Summa
"192.168.10.174", "Blade, VMware, VM Server", "80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162"
[VirtualMachine]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, Summa
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50
[Template]
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLocation, I
"FullCloneTemplate", "", "0", "Template, FullClone", "192.168.10.174", "Storage1", "Full
```

```

>ssc show machine -ms on -vms 192.168.10.174 -perf -vertical
[VMServer-01]
MachineName      : 192.168.10.174
MachineType     : Blade, VMware, VM Server
Uuid            : 80dfbf4d-2de0-d811-8001-003013f10162
MacAddress      : 00:30:13:F1:01:62
ProductName     :
ModelName       :
ManagedStatus  : Managed
SummaryStatus   : -
PowerState      : Running
HardwareStatus  : -
MaintenanceStatus : Off
RunningStatus   : -
ExecuteStatus   : -
EventPolicyStatus : -
OperatingSystem : VMware ESX
OSVersion       : 4.0.0 Build-208167
HostName        :
IPAddress       : 192.168.10.174, 192.168.10.58
ConnectionStatus :
VmsTotalCost    : 0
Capacity        : 200
VmCount         : 0
MemorySize (MB) : 3071
Uptime          : 1 days, 06:52:49
LastStartTime   : 2010/07/12 9:29:19
CpuUsage (%)    : 5
HostCpuUsage (%) : 0
MemoryUsage (%) : 24
HostMemoryUsage (%) : 0
[VirtualMachine-01]
MachineName     : MasterMachine
MachineType     : VMware, Virtual Machine
Uuid            : 42044847-c340-8ec6-a0bf-36b248db25eb
:
:
:
[VirtualMachine-02]
:
:
:
[Template-01]
SoftwareName    : FullCloneTemplate
CreateTime      :
SoftwareCost    : 0
SoftwareType    : Template, FullClone
VMServerName    : 192.168.10.174
SoftwareLocation : Storage1
ImageName       : FullCloneTemplate
DiskSize (MB)  :
Description     :

```

**[注]**

- 仮想マシンサーバに接続できない場合や一時的に情報が取得できない場合、仮想マシンサーバ、および仮想マシンの性能情報（パフォーマンス、仮想リソース）を空白で表示する場合があります。

## 2.7. マシンアカウント

### 2.7.1. アカウントの作成

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを作成します。  
SigmaSystemCenter では、管理対象の管理 / 監視 / 制御で使用する  
接続の種別ごとにアカウントを設定することができます。

#### [構文]

```
ssc machine-account create < -uuid UUID | -machine MachineName > -type  
ConnectionType -ip IPAddress -u UserName [-p Password] [-overwrite]
```

#### [引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> > (必須)	アカウント登録する対象のマシンのUUID、またはマシン名を指定します。管理対象外のマシンも指定できます。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されません。
-ip <i>IPAddress</i> (必須)	IPアドレスを指定します。
-u <i>UserName</i> (必須)	ユーザ名を指定します。接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i> ]	パスワードを指定します。 [-p <i>Password</i> ] を省略した場合、パスワード指定なしとなります。 <i>Password</i> に、空文字 (“”) を指定した場合、省略した場合と同じ扱いとなります。
[-overwrite]	マシンアカウントが既に登録済みの場合、上書きをします。 [-overwrite] を省略した場合、マシンアカウントが既に登録されているとエラーになります。

#### [構文例]

```
>ssc machine-account create -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100 -u User01  
-p xxxxxx  
>ssc machine-account create -uuid 7DEB0F09-0BC6-495f-9CF6-A15EBC88BCC9 -type oob  
-ip 192.168.1.101 -u User02  
>ssc machine-account create -machine SV0200 -type oob -ip 192.168.1.102 -u User01  
-p "" -overwrite  
>ssc machine-account update -uuid 1CC9EBCC-7091-498d-84D2-B2F168690BC8 -type oob  
-p xxxxxxxx
```

### 2.7.2. アカウントの更新

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを更新します。

#### [構文]

```
ssc machine-account update < -uuid UUID | -machine MachineName > -type  
ConnectionType [-ip IPAddress] [-u UserName] [-p Password]
```

## [引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> > (必須)	対象マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。
[-ip <i>IPAddress</i> ]	更新するIPアドレスを指定します。
[-u <i>UserName</i> ]	更新するユーザ名を指定します。 接続先のログインシステムによっては、大文字 / 小文字が区別されることがあります。
[-p <i>Password</i> ]	更新するパスワードを指定します。 <i>Password</i> に、空文字("")を指定した場合は、パスワードを削除します。

- -ip、-u、-pオプションをすべて省略することはできません。

## [構文例]

```
>ssc machine-account update -machine SV0100 -type oob -ip 192.168.1.100  
-u User01a -p xxxxxx  
>ssc machine-account update -uuid 1CC9EBCC-7091-498d-84D2-B2F168690BC8 -type oob  
-ip 192.168.1.200  
>ssc machine-account update -machine SV0200 -type oob -u User02a  
>ssc machine-account update -uuid 3571C728-EE55-4a43-A8AE-DDDA3ED8EBA0 -type oob  
-p xxxxxxxx
```

## 2.7.3. アカウントの削除

管理対象、または管理対象外マシンのアカウントを削除します。

### [構文]

```
ssc machine-account delete < -uuid UUID | -machine MachineName > -type  
ConnectionType
```

## [引数/オプション]

< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> > (必須)	対象マシンのUUID、またはマシン名を指定します。
-type <i>ConnectionType</i> (必須)	接続種別を指定します。“oob”のみサポートします。OOBは、Out-of-Band-Managementで使用されます。

## [構文例]

```
>ssc machine-account delete -machine SV0100 -type oob  
>ssc machine-account delete -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439 -type oob
```



## 2.7.4. アカウントの表示

管理対象、または管理対象外マシンのアカウント情報を表示します。

### [構文]

```
ssc machine-account show [< -uuid UUID | -machine MachineName >] [-setting]
```

### [引数/オプション]

[< -uuid <i>UUID</i>   -machine <i>MachineName</i> >]	対象マシンのUUID、またはマシン名を指定します。 <i>UUID</i> 、もしくは <i>MachineName</i> を省略した場合、すべての登録されたマシンが対象になります。
[-setting]	CSV形式で表示します。

### [構文例]

```
>ssc machine-account show
>ssc machine-account show -setting
>ssc machine-account show -machine SV0100
>ssc machine-account show -machine SV0100 -setting
>ssc machine-account show -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439
>ssc machine-account show -uuid 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439 -setting
```

### [表示例]

```
>ssc machine-account show
[1]
MachineName      : SV0100
UUID             : 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439
MachineAccount
  UserName       : user01
  HostName       : 192.168.1.100
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:00:00]
[2]
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName       : 192.168.1.101
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
```

```
>ssc machine-account show -setting
MachineName, UUID, UserName, HostName, Connection Status
SV0100, 503BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEC439, user01, 192.168.1.100, Connected [2009/0
SV0101, 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE, user02, 192.168.1.101, Connected [2009/0
```

```
>ssc machine-account show -machine SV0101
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName       : 192.168.1.101
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
```

```
>ssc machine-account show -uuid
555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineName      : SV0101
UUID             : 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE
MachineAccount
  UserName       : user02
  HostName       : 192.168.1.101
  Connection Status : Connected [2009/06/09 13:15:00]
```

```
>ssc machine-account show -uuid
555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE -setting
MachineName, UUID, UserName, HostName, Connection Status
SV0101, 555BDAA8-19A1-793F-8A39-198D1EFEEEEEE, user02, 192.168.1.101, Connected [2009/0
```

## 2.8. グループ

### 2.8.1. グループの作成

グループを作成します。

#### [構文]

```
ssc create group GroupName [-modeltype ModelType] [-count Count] [-ostype OperatingSystemType] [-priority Priority] [-pool <group | shared>] [-p Password] [-dpmweb DPMWebServer] [-dpmmanager DPMManager] [-vms VMSModelName] [-vnet VirtualNetworkName...] [-optimized] [-dc DatacenterName] [-prestriction]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	作成するグループを指定します。 グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 カテゴリは指定できません。 ※グループのパスに未作成のカテゴリがある場合は、そのカテゴリを作成します。また、モデルのパスにあるグループは、既存のグループでなければなりません。 -ostype を指定した場合は、グループ作成、 -modeltype を指定した場合は、モデル作成となります。 (例: カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[-modeltype <i>ModelType</i> ]	モデルに設定するモデル種別を指定します。 <i>ModelType</i> : モデル種別 「Physical」: 物理モデル作成 「VM」: VMモデル作成 「VMServer」: VMサーバモデル作成 モデル作成時は、省略することはできません。 省略するとグループを作成します。
[-count <i>Count</i> ]	作成するグループ数、またはモデル数を指定します。 「1」以上を指定してください。 「2」以上の場合は、 <i>GroupName</i> に1から順に通し番号を付加します。 既定値は (1) です。
[-ostype <i>OperatingSystemType</i> ]	OS種別を指定します。 グループ作成時は、省略することはできません。 以下の <i>OperatingSystemType</i> を指定できます。いずれか1つを指定してください。 <i>OperatingSystemType</i> : OS種別 「Hpux」: HP-UX 「Linux」: Linux 「Linux-ipf」: Linux for IPF 「Windows-client」: Windows Client 「Windows-ipf」: Windows Server for IPF 「Windows」: Windows Server
[-priority <i>Priority</i> ]	グループ、またはモデルのプライオリティを指定します。 「1」以上「10」以下で指定してください。既定値は (1) です。
[-pool <group   shared>]	プールマシンの検索モードを指定します。 グループ作成時のみ指定できます。 「group」: グループプールのマシンのみ検索します (GroupOnly)。 「shared」: グループプールに対象マシンがない場合、共通プールも検索します (GroupAndShared)。

[-p <i>Password</i> ]	Administratorのパスワードを指定します。 グループ作成時のみ指定できます。 グループに設定されている管理者パスワードを使用する 場合に指定してください。
[-dpmweb <i>DPMWebServer</i> ]	Webサーバ for DPMのIPアドレスを指定します。 <i>ModelType</i> がVMの場合に、有効です。
[-dpmmanager <i>DPMManager</i> ]	管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します。 <i>ModelType</i> がVMの場合に、有効です。
[-vms <i>VMSModelName</i> ]	VMサーバのモデル名を指定します。 <i>ModelType</i> がVMの場合に、有効です。 同一名のVMサーバモデルが複数ある場合は指定できません。
[-vnet <i>VirtualNetworkName...</i> ]	仮想ネットワーク名を指定します。 <i>ModelType</i> がVMの場合に、有効です。 最大4つ (NIC#1からNIC#4まで) 指定できます(空白区切 り)。 記述順に、NIC#1から割り当てます。 ※仮想ネットワーク設定でエラーになった場合でも、モデルは作 成 されています。その場合、Webコンソールで該当モデルの仮想 ネッ ト ワークを設定し直す必要があります。
[-optimized]	最適起動を有効にする場合、指定します。 <i>ModelType</i> がVMの場合に、有効です。
[-dc <i>DatacenterName</i> ]	DataCenter名を指定します。[仮想] ビューのパスを指定しま す。 <i>ModelType</i> がVMServerの場合に、有効です。 (例: 仮想マネージャ/DataCenter)
[-prestriction]	配置制約の設定を有効にします。 [-prestriction]を省略した場合は、配置制約の設定は無効にな ります。 <i>ModelType</i> がVMServerの場合に、有効です。

## 【構文例】

VMサーバモデルを作成(データセンタ名指定、配置制約を有効設定)

```
>ssc create group Category1/Group01/VmsModel01 -modeltype VMServer
-dc VC/Datacenter1 -prestriction
```

### • グループタイプ別指定可能オプション

グループタイプ	オプション
General	-ostype -count -priority -pool -p
Physical	-modeltype -count -priority
VM	-modeltype -count -priority -dpmweb -dpmmanager -vnet -vms -optimized

VMServer	-modeltype -count -priority -dc -prestriction
----------	---

## 2.8.2. グループ設定情報の更新

グループの設定内容を編集、または更新します。

### [構文]

```
ssc update group GroupName [-pool <group | shared>] [-policy PolicyName]
[-priority Priority] [-p Password] [-dpmweb DPMWebServer] [-dpmmanager
DPMManager] [-vms VMSModelName] [-vnet VirtualNetworkName...] [-optimized <on |
off>] [-dc [DatacenterName]] [-vmoptimize <on | off>] [-loadbound <[low=value]
[high=value] [dl=value] [du=value]>] [-reserve ReserveMachineNumber]
[-prestriction <on | off>] [-domain name [account] [password]] [-dns [primary]
[secondary] [tertiary]]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	更新するグループを指定します。 グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 カテゴリは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル)
[-pool <group   shared>]	プールマシンの検索モードを指定します。 <i>GroupName</i> にグループを指定した場合、有効です。 「group」: グループプールのマシンのみ検索します。 「shared」: グループプールに対象マシンがない場合、 共通プールも検索します。
[-policy <i>PolicyName</i> ]	ポリシー名を更新します。 <i>PolicyName</i> を省略した場合、 ポリシー設定がされていない状態になります。
[-priority <i>Priority</i> ]	グループ、またはモデルのプライオリティを更新します。 「1」以上「10」以下で指定してください。
[-p <i>Password</i> ]	Administratorのパスワードを指定します。 <i>GroupName</i> にグループを指定した場合、有効です。
[-dpmweb <i>DPMWebServer</i> ]	管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します。 <i>DPMWebServer</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMの場合、有効です。
[-dpmmanager <i>DPMManager</i> ]	管理サーバ for DPMのIPアドレスを指定します。 <i>DPMManager</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMの場合、有効です。
[-vms <i>VMSModelName</i> ]	仮想マシンサーバのモデル名を指定します。 <i>VMSModelName</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMの場合、有効です。 同一名のVMサーバモデルが複数ある場合、指定はできません。
[-vnet <i>VirtualNetworkName...</i> ]	仮想ネットワークを指定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMの場合、有効です。 最大4つ (NIC#1からNIC#4まで) 指定できます。 既存の設定をすべて削除して、再設定します。 既存の設定に対して、追加、編集、削除はできません。 変更のない仮想ネットワーク名も含めて指定する必要があります。
[-optimized <on   off>]	最適起動を設定します。 <i>GroupName</i> のモデルの種別がVMの場合に有効です。 「on」: 最適起動を有効にします。

	「off」：最適起動を無効にします。
<code>[-dc <i>DatacenterName</i>]</code>	DataCenter名を指定します。[仮想] ビューのパスを指定します。 (例: 仮想マネージャ/DataCenter) <i>DatacenterName</i> を省略した場合、未設定となります。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMサーバの場合、有効です。
<code>[-vmoptimize &lt;on   off&gt;]</code>	最適起動を設定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMサーバの場合、有効です。 「on」：VM最適配置の設定を有効にします。 「off」：VM最適配置の設定を無効にします。
<code>[-loadbound &lt;[low=<i>value</i>] [high=<i>value</i>] [dl=<i>value</i>] [du=<i>value</i>]&gt;]</code>	VM最適配置の負荷分散、省電力を設定します。 <i>value</i> には「0」以上「100」以下 (単位: %) の値を指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。 low、high、dl、duのいずれか1つ指定する必要があります。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMサーバの場合、有効です。 「low」: 低負荷境界を指定します。 「high」: 高負荷境界を指定します。 「dl」: 稼動目標域の下限值を指定します。 「du」: 稼動目標域の上限値を指定します。
<code>[-reserve <i>ReserveMachineNumber</i>]</code>	VM最適配置の予備マシン台数を指定します。 「0」以上「9」以下の範囲で指定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMサーバの場合、有効です。
<code>[-prestriction &lt;on   off&gt;]</code>	配置制約を設定します。 <i>GroupName</i> のモデル種別がVMサーバの場合、有効です。 「on」: 配置制約の設定を有効にします。 「off」: 配置制約の設定を無効にします。
<code>[-domain <i>name</i> [<i>account</i>] [<i>password</i>]]</code>	ドメイン (サフィックス) 名を指定します。 Windows系の場合は、アカウントとパスワードもあわせて指定します。
<code>[-dns [<i>primary</i>] [<i>secondary</i>] [<i>tertiary</i>]]</code>	DNSサーバのIPアドレスを指定します。 [ <i>primary</i> ] : プライマリDNSを指定します。 [ <i>secondary</i> ] : セカンダリDNSを指定します。(Windows, Linux系) [ <i>tertiary</i> ] : ターシャリDNSを指定します。(Linux系) 上記設定がない場合は、現在の値がクリアされます。  例) -dns 192.168.10.1 172.10.1.5 192.168.1.1 primary=192.168.10.1 secondary=172.10.1.5 tertiary =192.168.1.1  -dns 192.168.10.1 172.10.1.5 primary=192.168.10.1 secondary=172.10.1.5 tertiary=  -dns 192.168.10.1 primary=192.168.10.1 secondary= tertiary=  -dns

```
primary=
secondary=
tertiary=
```

## [構文例]

VMサーバモデルの設定を更新

```
>ssc update group Category1/Group01/VmsModel01 -vmoptimize on
-loadbound low=10 dl=20 du=60 high=80 -reserve 2
>ssc update group Category1/Group01/VmsModel01 -dc VC/Datacenter1
-prestriction on
```

### • グループタイプ別指定可能オプション

グループタイプ	オプション
General	-priority -pool -policy -p -domain -dns
Physical	-priority -policy
VM	-priority -policy -dpmweb -dpmmanager -vnet -vms -optimized
VMServer	-priority -policy -dc -vmoptimize -loadbound -reserve -prestriction

## 2.8.3. グループ設定の表示

グループの設定内容を表示します。

### [構文]

```
ssc show group GroupName [-group] [-model [Mode/Name...]]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	グループ設定を表示するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
[-group]	グループの設定内容を表示します。
[-model]	モデルの設定内容を表示します。
[ <i>ModelName...</i> ]	対象となるモデル名を指定します。

## [構文例]

```
>ssc show group Category1/Group01
>ssc show group Group-A001 -group
>ssc show group Group-B001 -model
>ssc show group Group-B001 -model Model-B001 Model-B002
```

## 2.8.4. マシンプロファイルの設定

マシンプロファイルを設定します。

### [構文]

```
ssc set profile Path [-cpu count=value [share=value] [limit=value]] [-mem
size=value] [-vnet VirtualNetworkName...] [-systemdisk [type=<thin | thick>]
[datastore]] [-extdisk size=value [type=<thin | thick>] [datastore]] [-delete
[<cpu | mem | vnet | systemdisk | extdisk>]]
```

### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	設定対象運用グループ、モデル、またはホストまでのフルパスを指定します。 View Type(operations://)は省略可能です。 カテゴリは指定できません。  例: グループ指定の場合 Category/Group モデル指定の場合 Category/Group/Model ホスト指定の場合 Category/Group/Host ホスト指定の場合 (View Type指定時) operations://Category/Group/Host
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i> ] [limit= <i>value</i> ]]	CPU数とシェア値及び制限値を指定します。 CPU数は必ず指定してください。 "=" の前後に空白は指定できません。  "count" : CPU数を指定します。 <i>value</i> に、「1」以上「9999」以下を指定します。 (例: count=2)  "share" : CPU のシェア値を指定します。 CPUシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * CPU数 Hyper-V 設定値 / 10 Xen 設定値 * 256 / 1000 <i>value</i> に、以下の値を指定します。 省略時はshare=nが設定されます。 「h」: 高 (2000) 「n」: 普通(1000) 「l」: 低 (500) 1-99999 : 手動 (例: share=h, share=30)  "limit" : CPU の制限値を指定します。 <i>value</i> に、「0」以上「99999」以下を指定します。 (例: limit=1500)



	省略時はlimit=0 (unlimited) が設定されます。
<code>[-mem size=<i>value</i>]</code>	メモリサイズを指定します。 "=" の前後に空白は指定できません。  "size" : メモリのサイズ(MB) を指定します。 <i>value</i> に、「1」(MB) 以上「9999999」(MB) 以下を指定します。 (例: size=512)
<code>[-vnet <i>VirtualNetworkName</i>...]</code>	仮想ネットワークを指定します。 最大4つ (NIC#1からNIC#4まで) 指定できます。 (空白区切りで指定します。) 記述順に、NIC#1から順に割り当てます。
<code>[-systemdisk [type=&lt;thin   thick&gt;] [<i>datastore</i>]]</code>	システムディスク情報の設定をします。  "type" : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時はthickが設定されます。  "datastore" : システムディスクの位置を指定します。 省略可能です。
<code>[-extdisk size=<i>value</i> [type=&lt;thin   thick&gt;] [<i>datastore</i>]]</code>	拡張ディスク情報の設定をします。  "size" : ディスクのサイズ (MB) を指定します。 <i>value</i> に、「10」(MB) 以上「99999999」(MB) 以下を指定します。  "type" : ディスクのタイプを指定します。 thin / thick のどちらかを指定します。 省略可能です。省略時はthickが設定されます。  "datastore" : 拡張ディスクの位置を指定します。 省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。
<code>[-delete [&lt;cpu   mem   vnet   systemdisk   extdisk&gt;]]</code>	設定情報を消去します。 指定した オプション名の設定情報を消去します。 その他のオプションとは分けて実行してください。 オプション名を指定しない場合は、すべての設定情報を消去します。

## [構文例]

```
>ssc set profile Group1 -cpu count=2 share=h
>ssc set profile Group1/model -cpu count=2 share=600 -mem size=1024
>ssc set profile Group1/model -vnet "VM Network"
>ssc set profile Group1/host1 -systemdisk type=thin Storage1
>ssc set profile Group1/host1 -extdisk size=2048
>ssc set profile Group1 -delete
>ssc set profile operations://Group1/model -delete cpu
```

## 2.9. ホスト

### 2.9.1. ホストの作成

グループにホストを作成します。

#### [構文]

```
ssc create host GroupName HostName [IPAddress SubNetMask [DefaultGateway]  
[-monitor]] [-hc HostCount] [-product ProductKey] [-p Password]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ホストを作成するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	グループに作成するホスト名を指定します。 入力できる文字数は63文字以内です。 ただし、数字のみで構成されたホスト名、あるいはホスト名の語尾に入力できる数字の文字数は、9文字 (9桁)以内です。
[ <i>IPAddress</i> ]	作成するホストに設定するIPアドレスを指定します。 NIC#1に設定されます。 <i>HostCount</i> が「2」以上の場合は、指定したIPアドレスから順に+1します。 <i>SubNetMask</i> 、 <i>DefaultGateway</i> 、[-monitor] を指定した場合、省略することはできません。
[ <i>SubNetMask</i> ]	作成するホストのIPアドレスのサブネットマスクを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。 <i>IPAddress</i> を指定した場合は、省略することはできません。
[ <i>DefaultGateway</i> ]	デフォルトゲートウェイを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-monitor]	指定すると、 <i>IPAddress</i> を管理用IPアドレスとして設定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-hc <i>HostCount</i> ]	グループに作成するホスト数を指定します。 「2」以上を指定すると、 <i>HostName</i> に1から順に通し番号を付加します。 <i>IPAddress</i> を指定した場合、IPアドレスが割り当てられる範囲内で指定してください。
[-product <i>ProductKey</i> ]	プロダクトキーを指定します。 グループのOS種別が以下の場合、指定できます。 Windows Client / Windows Server for IPF / Windows Server
[-p <i>Password</i> ]	Administratorのパスワードを指定します。 ホストに設定されている管理者パスワードを使用する場合に指定してください。 省略すると、グループに設定されているパスワードを使用します。

#### [構文例]

```
>ssc create host Category1/Group01 HOST-001  
>ssc create host Group-A001 Host-A001 192.168.10.100 255.255.255.0 -hc 50  
>ssc create host Group-B001 Host-B001 192.168.20.200 255.255.255.0 192.168.20.1  
-monitor  
>ssc create host Group-C001 Host-C001 -product xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx  
>ssc create host Group-D001 Host-D001 -p xxxxxxxx
```

## 2.9.2. ホストの更新

ホストの設定内容を編集、または更新します。

### [構文]

```
ssc update host GroupName HostName [-name NewHostName] [-product ProductKey]  
[-tag TagName] [-change group DestinationGroupName] [-p [Password]]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	編集、更新するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定 できません。 (例: カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	編集、更新するホスト名を指定します
[-name <i>NewHostName</i> ]	<i>HostName</i> の設定内容を <i>NewHostName</i> に更新しま す。
[-product <i>ProductKey</i> ]	プロダクトキーを更新します。 グループのOS種別が以下の場合に更新ができます。 Windows Client Windows Server for IPF Windows Server
[-tag <i>TagName</i> ]	タグを更新します。
[-change group <i>DestinationGroupName</i> ]	グループ間移動 (仮想マシンメンテナンス) を行います。 このオプションは、仮想マシンのみ指定できます。 <i>HostName</i> の移動先グループを指定します。 グループで稼働している仮想マシンのホストを別のグルー プに 移動させるために、ホストの設定内容を更新します。 モデルまでのパスを指定します。 ホストは稼働状態 (リソース割り当て済み) である必要が あります。 他のオプションと同時に指定はできません。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[-p <i>Password</i> ]	ホストに設定されている管理者パスワードを使用する場合 の パスワードを指定します。-pのみを指定した場合、グルー プに 設定されたパスワードを使用するように変更されます。 -pオプションは単独で指定してください。

-name、-product、-tag、-p、-change groupのうち、いずれか1つは必ず指定する必要があります。

### [注]

- ホストのグループ間移動 (-change group) を行うには、以下の条件を満たしている必要があります。コマンド実行前に、移動元と移動先のグループ、モデル設定を確認してください。
  - 変更元、変更先グループのモデル種別がVM
  - 変更元、変更先グループのOS種別、および仮想ネットワークの設定が同じ
  - 移動対象と同じ名前のホストが、変更先のグループに存在しない
  - 移動対象と同じ仮想マシンが、変更先の同じモデルグループのプールに存在しない
- データベースに対する操作のみで、ホストのグループ間移動を行いますので、ストレージ、ロードバランサ、ネットワーク、電源制御、DPM上のグループ移動は行いません。

## [構文例]

```
>ssc update host Category1/Group-01 Host-001 -name Host-A01
>ssc update host Category1/Group-01 Host-002
-product xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003 -tag tag001
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003 -p xxxxxx
>ssc update host Category1/Group-01 Host-003
-changegroup Category1/Group-02/Mode-0201
```

## 2.9.3. ホスト定義の表示

ホスト定義の設定内容を表示します。

### [構文]

```
ssc show host GroupName [HostName...] [-setting]
```

### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ホスト定義を表示するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
[ <i>HostName...</i> ]	対象となるホスト名を指定します。
[-setting]	表示形式を指定します。 省略した場合、CSV形式で表示します。

### [構文例]

```
>ssc show host Category1/Group01 HOST-01
>ssc show host Group-A001
>ssc show host Group-B001 -setting
```

## 2.10. IP アドレス

### 2.10.1. IP アドレス情報の追加

グループのホストにIP アドレス（ネットワーク）を追加します。

#### 【構文】

```
ssc add ipaddress GroupName HostName NicNumber IPAddress SubNetMask  
[DefaultGateway] [-monitor] [-hc HostCount]
```

#### 【引数/オプション】

<i>GroupName</i> (必須)	IPアドレス情報を追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	IPアドレスを追加するホスト名を指定します。 -hcに「2」以上を指定した場合、 <i>HostName</i> は、末尾が数字でなければなりません。
<i>NicNumber</i> (必須)	対象となるNIC番号を指定します。
<i>IPAddress</i> (必須)	IPアドレスを指定します。 IPアドレスは、指定した <i>IPAddress</i> を基準にホスト数分+1します。 <i>SubNetMask</i> 、[ <i>DefaultGateway</i> ]、[-monitor] を指定した場合、省略することはできません。
<i>SubNetMask</i> (必須)	サブネットマスクを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[ <i>DefaultGateway</i> ]	デフォルトゲートウェイを指定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-monitor]	指定すると、 <i>IPAddress</i> を管理用IPアドレスとして設定します。 <i>IPAddress</i> を指定する必要があります。
[-hc <i>HostCount</i> ]	IPアドレスを設定するホスト数を指定します。 「2」以上を指定すると、 <i>HostName</i> の末尾の数字を基準に通し番号を付加した名前のホストに追加します。 <i>IPAddress</i> を指定した場合、IPアドレスが割り当てられる範囲内で指定してください。

#### 【構文例】

```
>ssc add ipaddress Category1/Group01 HOST-01 1 192.168.100.100 255.255.255.0  
>ssc add ipaddress Group-A001 Host-A001 2 192.168.1.100 255.255.255.0 -hc 50  
>ssc add ipaddress Group-A001 Host-A001 2 192.168.2.100 255.255.255.0 192.168.1.1  
-monitor
```

## 2.11. ソフトウェア

### 2.11.1. ソフトウェアの追加

グループ（グループ / モデル）、またはホストにソフトウェアを追加します。  
ソフトウェアを配布ポイントに追加します。

#### [構文]

```
ssc add software GroupName [-host HostName] -soft SoftwareName -point  
PointNumber
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ソフトウェアを追加するグループを指定します。 グループ、またはモデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ、カテゴリ/グループ/モデル) -hostの指定がない場合、指定したグループ、またはモデル にソフトウェアを追加します。 -hostを指定した場合、グループ名までのパスを指定してください。 カテゴリ、モデルは指定できません。
[-host <i>HostName</i> ]	ホスト名を指定します。 指定したホストにソフトウェアを追加します。 ホストにソフトウェアを追加する場合、-hostは 省略することはできません。
-soft <i>SoftwareName</i> (必須)	追加するソフトウェアを指定します。
-point <i>PointNumber</i> (必須)	追加するソフトウェアの配布ポイントを指定します。  グループ / モデルを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。 <i>PointNumber</i> : 配布ポイント 「1」: マシン稼働時に配布 「2」: マシン待機時に配布 「3」: 待機時・シャットダウン後  ホストを指定した場合、以下の配布ポイントを指定できます。 <i>PointNumber</i> : 配布ポイント 「1」: 稼働時・グループ配布前 「2」: 稼働時・配布 「3」: 稼働時・グループ配布後 「4」: 待機時・グループ配布前 「5」: 待機時・配布 「6」: 待機時・グループ配布後 「7」: 待機時・シャットダウン後

#### [構文例]

```
>ssc add software Category1/Group01 -soft Soft-001 -point 1  
>ssc add software Category1/Group01/Model001 -soft Soft-002 -point 2  
>ssc add software Group-A001 -soft Soft-001 -point 1  
>ssc add software Group-A001 -host Host-A001 -soft Soft-001 -point 1
```

## 2.12. ストレージ

### 2.12.1. ストレージの追加

グループのホストにストレージを追加します。  
ディスクアレイのディスクボリュームをホストに追加します。

#### [構文]

```
ssc add storage GroupName HostName DiskArrayname DiskVolumeName [-hbanum HBANumber]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ストレージを追加するホストが存在するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
<i>HostName</i> (必須)	ストレージを追加するホスト名を指定します。
<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
<i>DiskVolumeName</i> (必須)	ディスクボリューム名を指定します。
[-hbanum <i>HBANumber</i> ]	接続するHBA番号を指定します。 「1」から「9999」までの範囲で指定できます。 省略すると、すべてのHBA番号に接続します。

#### [構文例]

```
>ssc add storage Category1/Group01 HOST-01 DiskArray-001 Volume-001 -hbanum 1  
>ssc add storage Group-A001 Host-A001 DiskArray-001 Volume-002
```

### 2.12.2. ディスクアレイのパスを表示

ディスクアレイのパスを表示します。

#### [構文]

```
ssc show diskarraypath DiskArrayName [-serialno SerialNumber]
```

#### [引数 / オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイ名を指定します。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc show diskarraypath s1400
```

### 2.12.3. HBAの設定

HBAをディスクアレイに関連付けます。

#### [構文]

```
ssc set hba DiskArrayName DiskArrayPath WWPN [-wwnn WWNN] [-serialno SerialNumber]
```

#### [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイの名前を指定します。
<i>DiskArrayPath</i> (必須)	ディスクアレイのパスを指定します。
<i>WWPN</i> (必須)	WWPNを指定します。
[-wwnn <i>WWNN</i> ]	WWNNを指定します。 DiskArrayの種別がCLARiXの場合必須です。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc set hba ck1000 "SG20 (SP A/10.15.22.176/0)" 1000-0000-C96F-E240
```

#### [注]

- DiskArrayの種別がCLARiXとSymmetrixのみ使用できます。

### 2.12.4. HBAの解除

HBAをディスクアレイから関連解除します。

#### [構文]

```
ssc release hba DiskArrayName DiskArrayPath WWPN [-wwnn WWNN] [-serialno SerialNumber]
```

#### [引数/オプション]

<i>DiskArrayName</i> (必須)	ディスクアレイの名前を指定します。
<i>DiskArrayPath</i> (必須)	ディスクアレイのパスを指定します。
<i>WWPN</i> (必須)	WWPNを指定します。
[-wwnn <i>WWNN</i> ]	WWNNを指定します。 DiskArrayの種別がCLARiXの場合必須です。
[-serialno <i>SerialNumber</i> ]	ディスクアレイのシリアル番号を指定します。 同一のディスクアレイ名が複数存在する場合にシリアル番号を指定します。

#### [構文例]

```
>ssc release hba CK100000 "SG20 (SP A/10.15.22.176/0)" 1000-0000-C96F-E240
```



**[注]**

- ディスクアレイの種別がCLARiXとSymmetrixのみ使用できます。

## 2.13. VLAN

### 2.13.1. VLAN の追加

グループにVLANを追加します。  
グループに追加するNIC番号、スイッチ、VLANを指定してください。

#### [構文]

```
ssc add vlan GroupName NicNumber SwitchName VlanName [-tag < on | off >]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	VLANを追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ)
<i>NicNumber</i> (必須)	NIC番号を指定します。「1」から「7」の範囲で指定します。
<i>SwitchName</i> (必須)	スイッチ名を指定します。
<i>VlanName</i> (必須)	対象となる VLAN名を指定します。
[-tag < on   off >]	タグ情報を設定します。 「on」: VLANにタグを設定します。 「off」: VLANにタグを設定しません。 [-tag <on   off>] を省略した場合、「off」の指定と同じになります。

#### [構文例]

```
>ssc add vlan Category1/Group01 1 SW-001 VLAN-001  
>ssc add vlan Group-A001 1 SW-A001 VLAN-A001 -tag on
```

## 2.14. ロードバランサ

### 2.14.1. ロードバランサの追加

グループにロードバランサを追加します。

#### [構文]

```
ssc add lb GroupName LbGroupName
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	ロードバランサを追加するグループを指定します。 グループまでのパスを指定します。カテゴリ、モデルは指定できません。 (例: カテゴリ/グループ、グループ)
<i>LbGroupName</i> (必須)	ロードバランサグループを指定します。

#### [構文例]

```
>ssc add lb Category1/Group01 LBGroup-001  
>ssc add lb Group-A001 LBGroup-A001
```

## 3. 仮想環境の構成制御コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の仮想環境の構成制御に関するコマンドについて記載します。

### 3.1. 仮想マシンサーバの操作

#### 3.1.1. 仮想マシンサーバの追加

グループに仮想マシンサーバを追加します。

[構文]

```
ssc add vmserver GroupName -name HostName [-port PortNumber] [-account Account]  
[-p Password]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	仮想マシンサーバを追加するDataCenterを指定します。 DataCenterまでのフルパスで指定します。
-name <i>HostName</i> (必須)	ホスト名、またはIPアドレスを指定します。
[-port <i>PortNumber</i> ]	ポート番号を指定します。「1」から「65535」の範囲で指定します。 省略すると、「443」を設定します。
[-account <i>Account</i> ]	アカウント名を指定します。
[-p <i>Password</i> ]	パスワードを指定します。

[構文例]

```
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name VMServer-01  
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name 192.168.10.100  
>ssc add vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 -name 192.168.10.101 -port 443  
-account user01 -p xxxxx
```

#### 3.1.2. 仮想マシンサーバの削除

グループから仮想マシンサーバを削除します。

[構文]

```
ssc delete vmserver GroupName VMServerName[...]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i>	削除する仮想マシンサーバのDataCenterを指定します。 DataCenterまでのフルパスを指定します。
<i>VMServerName</i> [...]	対象の仮想マシンサーバ名を指定します。

[構文例]

```
>ssc delete vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 VMServer-01  
>ssc delete vmserver 192.168.10.1/Datacenter1 192.168.10.100 192.168.10.101
```

### 3.1.3. 仮想マシンサーバのパスワード変更

仮想マシンサーバのパスワードを変更します。

#### [構文]

```
ssc change-passwd Type Name NewPassword [-user User]
```

#### [引数/オプション]

<i>Type</i> (必須)	変更する対象を指定します。 "manager" のみ指定可能です。
<i>Name</i> (必須)	対象のホスト名を指定します。 もしくは、対象の仮想マシンサーバまでのフルパスを指定します。 (例: VirtualCenter/DataCenter/ESX) 同一のホスト名が存在する場合、パス指定で指定します。
<i>NewPassword</i> (必須)	新しいパスワードを指定します。
[-user <i>User</i> ]	アカウント名を指定します。 <i>user</i> を省略した場合、アカウント名は変更されません。

#### [構文例]

```
>ssc change-passwd manager Host1 "" "*****" -user user1  
>ssc change-passwd manager "VirtualCenter/New DataCenter/Esx1" "****" "*****"
```

### 3.1.4. 仮想マシンサーバの復旧の後処理

仮想マシンサーバ復旧処理 (Failover) 実行後の後処理を行います。  
本コマンドは、接続状態が "切断" 状態のスタンドアロン ESXi のみ有効です。

#### [構文]

```
ssc recover machine SourceName
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	対象となる仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。 運用グループの場合: operation://Category1/Group1/Model1/VMServer1 (ビュータイプは、"operation:") 仮想グループの場合: virtual://VC1/DataCenter1/VMServer1 (ビュータイプは、"virtual:"、 ビュータイプを省略した場合、"virtual:"となります。)
---------------------------	---

#### [構文例]

```
>ssc recover machine operation://Category01/Group01/Model01/VMS001  
>ssc recover machine virtual://192.168.1.100/DC/192.168.1.5  
>ssc recover machine 192.168.1.100/DC/192.168.1.5
```

### 3.1.5. マシン退避

仮想マシンサーバ上の仮想マシンを他の仮想マシンサーバへ退避させます。  
-all を指定した場合、電源オフ状態の仮想マシンを含むすべての仮想マシンを移動します。  
省略した場合、電源オン状態の仮想マシンを移動します。

#### [構文]

```
ssc evacuate machine SourceName [DestinationName] [-all]
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動する仮想マシン名、または移動元の仮想マシンサーバ名をパスで指定します。 (例: 運用ビュー://カテゴリ/グループ/モデル/仮想マシン もしくは 仮想ビュー://データセンター/仮想マシンサーバ/仮想マシン) ビューには、以下を指定できます。 ・「operation:」: [運用] ビュー ・「virtual:」: [仮想] ビュー ビューを省略した場合 (「//」を指定)、自動で仮想ビューが指定されます。 仮想マシン名を指定した場合、-all は指定できません。 仮想マシン名を指定した場合、VM移動 (failover)、 仮想マシンサーバ名を指定した場合、VM退避となります。
[ <i>DestinationName</i> ]	移動先の仮想マシンサーバ名をパスで指定します。 (例: 運用ビュー://カテゴリ/グループ/モデル/仮想マシンサーバ もしくは 仮想ビュー://データセンター/仮想マシンサーバ)。 ビューには、以下を指定できます。 ・「operation:」: [運用] ビュー ・「virtual:」: [仮想] ビュー ビューを省略した場合 (「//」を指定)、自動で仮想ビューが指定されます。 全体を省略した場合、自動で仮想マシンサーバが選択されます。 ( <i>SourceName</i> に仮想マシン名を指定した場合、省略できません。)
[-all]	すべての仮想マシンを移動します。 <i>SourceName</i> に仮想マシン名を指定した場合、指定できません。

#### [構文例]

```
>ssc evacuate machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001  
virtual://VC-01/DC-001/VMServer-002  
>ssc evacuate machine operations://Group-VM001/Model-VM01/VM-002  
operations://Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002  
>ssc evacuate machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-003 -all
```

## 3.2. 仮想マシンの操作

### 3.2.1. 仮想マシンの構成変更

仮想マシンの CPU 数、メモリサイズなど構成変更を行います。  
リソースグループ（またはラック）や仮想マシンサーバ（またはデータセンタ）を指定することで、その配下に存在する仮想マシンの構成変更を一括で行います。

#### [注]

仮想マシンの一括編集を行う前に、必ず収集を行い、仮想マシンを最新の状態にしてください。最新の状態でない場合、編集操作が反映されない場合があります。

#### [構文]

```
ssc update vmproperty Path [-name vmName] [-cost costValue] [-cpu count=value  
[share=value] [limit=value]] [-mem size=value [share=value]] [-disk <add |  
delete | disconnect | modify> [size=value] [type=<thin | thick>]  
[location=value]]
```

#### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	対象仮想マシンが所属するグループ、または対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。 グループには、仮想マシンサーバ、データセンタ、リソースのパスが指定できます。 リソースグループの場合(ビュータイプは、resource:) resource://Rack01 仮想グループの場合(ビュータイプは、virtual:) virtual://VC1/DataCenter1/VMServer1  ビュータイプ省略時、virtual: となります。  指定したグループ配下で、管理対象の仮想マシンが編集対象になります。 稼働中で、メンテナンスオフの仮想マシンが存在すると、エラーとなり、全仮想マシンの編集処理が行われません。
[-name <i>vmName</i> ]	対象仮想マシンの名称を指定した名称に変更します。 対象仮想マシンが1台の場合に有効となります。 省略時、変更しません。
[-cost <i>costValue</i> ]	対象仮想マシンのコスト値を変更します。 「0」から「1000」の範囲で指定します。 省略時、変更しません。
[-cpu count= <i>value</i> [share= <i>value</i> ] [limit= <i>value</i> ]]	CPU数とシェア値を指定します。省略時、変更しません。 "=" の前後に空白は指定できません。 count : CPU数を指定します。 <i>value</i> に、「1」から「9999」の範囲で指定します。 (例: count=2)  share : CPUのシェア値を指定します。 CPUシェアの各仮想化基盤での設定値は以下の通り VMware 設定値 * CPU数 Hyper-V 設定値 / 10

	<p>Xen 設定値 * 256/1000  <i>value</i>に、以下の値を指定します。</p> <p>h : 高 (2000)  n : 普通 (1000)  l : 低 (500)  1-99999 : 手動  (例: share=h, share=30)</p> <p>limit : CPUの制限値を指定します。  <i>value</i>に、「0」から「99999」の範囲で指定します。  (例: limit=1500)</p>
<p>[-mem size=<i>value</i>  [share=<i>value</i>]]</p>	<p>メモリサイズとシェア値を指定します。省略時、変更しません。  "="の前後に空白は指定できません。  size : メモリのサイズ (MB) を指定します。  <i>value</i>に、「1」から「9999999」(MB) の範囲で指定します。  (例: size=512)</p> <p>share : メモリのシェア値を指定します。  <i>value</i>に、以下の値を指定します。</p> <p>h : 高 (メモリサイズ×20)  n : 普通 (メモリサイズ×10)  l : 低 (メモリサイズ×5)  1-99999 : 手動  (例: share=l, share=30)</p>
<p>[-disk  &lt;add   delete   disconnect    modify&gt;  [size=<i>value</i>]  [type=&lt;thin   thick&gt;]  [location=<i>value</i>]]</p>	<p>拡張ディスクの設定を変更します。</p> <p>追加する場合、addを指定  size, typeは必須指定となります。  locationは省略可能です。</p> <p>削除する場合は、deleteを指定します。  他のオプションは指定できません。</p> <p>切断する場合は、disconnectを指定します。  他のオプションは指定できません。</p> <p>更新する場合は、modifyを指定します。  sizeのみ変更できます。</p> <p>size : ディスクのサイズ (MB) を指定します。  <i>value</i>に、「10」から「99999999」(MB) の間で指定します。</p> <p>type : 拡張ディスクのタイプを指定します。  thin / thick のどちらかを指定します。</p> <p>location : 拡張ディスクの位置を指定します。  省略可能です。省略時は、システムディスクと同じ位置に作成されます。</p>



## [構文例]

```
・ データセンタ配下の仮想マシンを編集する
>ssc update vmproperty virtual://192.168.1.1/DataCenter001 -cpu count=2
>ssc update vmproperty 192.168.1.1/DataCenter002 -cpu count=2 share=1
-mem size=512 share=h
・ 仮想マシンサーバ配下の仮想マシンを編集する
>ssc update vmproperty 192.168.1.1/DataCenter001/VMServer01 -cpu count=1
share=35 -mem size=512 share=50
・ リソースグループ配下仮想マシンサーバ配下の仮想マシンを編集する
>ssc update vmproperty resource://Rack01/Group001 -cpu count=2
>ssc update vmproperty resource://Rack01/Group001 -mem size=256
>ssc update vmproperty resource://Rack01/Group001 -disk modify size=512
>ssc update vmproperty resource://Rack01/Group001 -disk add size=512 type=thin
location=localstorage
・ 仮想マシン単独指定 (名称変更、コスト値変更、CPU数変更)
>ssc update vmproperty resource://Rack01/Group001/vm001 -name vmXXX -cost 15
-cpu count=2
```

### 3.2.2. 仮想マシンの移動 (Migrate)

仮想マシンの移動 (Migrate) を行います。

#### [構文]

```
ssc migrate machine SourceName DestinationName [-n]
```

#### [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシン名をフルパスで指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	移動先の仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。
[-n]	移動後に仮想マシンを起動しない場合、指定します。

#### [構文例]

```
>ssc migrate machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual://VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc migrate machine operations://Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations://Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc migrate machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual://VC-01/DC-001/VMServer-002 -n
```

### 3.2.3. 仮想マシンの移動 (Move)

仮想マシンの移動 (Move) を行います。

#### [構文]

```
ssc move machine SourceName DestinationName [-datastore DatastoreName] [-n]
```

## [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシン名をフルパスで指定します。
<i>DestinationName</i> (必須)	移動先の仮想マシンサーバのマシン名をフルパスで指定します。
<i>[-datastore DatastoreName]</i>	移動先のDatastore名を指定します。
<i>[-n]</i>	移動後に仮想マシンを起動しない場合、指定します。

## [構文例]

```
>ssc move machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-001
virtual://VC-01/DC-001/VMServer-002
>ssc move machine operations://Group-VM001/Model-VM01/VM-002
operations://Group-VMServer001/Model-VMServer01/VMServer-002
>ssc move machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual://VC-01/DC-001/VMServer-002 -datastore storage1
>ssc move machine virtual://VC-01/DC-001/VMServer-001/VM-003
virtual://VC-01/DC-001/VMServer-002 -n
```

### 3.2.4. マシン退避 (ホスト指定)

仮想マシンサーバ上の仮想マシンを他の仮想マシンサーバへ退避させます。  
対象のマシンが運用グループで稼動しているホスト名を指定します。  
-all を指定した場合、電源オフ状態の仮想マシンを含むすべての仮想マシンを移動します。

## [構文]

```
ssc evacuate host SourceName [DestinationName] [-all]
```

## [引数/オプション]

<i>SourceName</i> (必須)	移動元の仮想マシン、または仮想マシンサーバのホスト名をフルパスで指定します。
<i>[DestinationName]</i>	移動先の仮想マシンサーバのホスト名をフルパスで指定します。
<i>[-all]</i>	全仮想マシンを移動する場合、指定します。 省略した場合、稼動している仮想マシンのみ移動します。

## [注]

- 仮想マシンの仮想ディスクが共有ディスク上に存在しない場合、Move 処理によって仮想マシンをシャットダウン後に、データの移行が実行されます。

## [構文例]

```
>ssc evacuate host //Category1/Group01/HOST-01
>ssc evacuate host //Group-VM001/Host-A001 //Group-VMServer001
>ssc evacuate host //Group-VMServer001/Host-VMS001 //Group-VMServer002
>ssc evacuate host //Group-VM002 -all
```

### 3.2.5. 仮想マシンの作成

仮想マシンの作成を行います。

#### [構文]

```
ssc create machine GroupName [-host HostName[...]] [-count Count] [-index start=value <end=value | count=value>] [-vmname VMName] [-vms VmsName] [-datastore DatastoreName]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	対象のグループをフルパスで指定します。 (例: カテゴリ/グループ、グループ、グループ/モデル) カテゴリだけの指定はできません。
[-host <i>HostName</i> [...]]	稼働させるホスト名、あるいはIPアドレスを指定します。 IPアドレス指定の場合は xxx.xxx.xxx.xxx形式で記述してください。 作成先グループで設定済みのホスト定義を指定する必要があります。 このオプションを指定した場合は -count は指定できません。 複数指定した場合は、 -index は指定できません。
[-count <i>Count</i> ]	作成する仮想マシンの台数を指定します。 このオプションを指定した場合は -host, -index は指定できません。
[-index start= <i>value</i> <end= <i>value</i>   count= <i>value</i> >]	作成する仮想マシンのホスト名の開始番号、終了番号、または件数を指定します。 -host が IP アドレスの場合、複数指定している場合は、無効となります。 -count が指定されている場合は無効となります。 -host, -count が共に省略されている場合は、ホスト設定一覧の順番となります。 (例) VM001-VM010 を作成する場合 -host vm -index start=001 end=010 -host vm -index start=001 count=10 (例) ホストの5番目から10番目を作成する場合 -index start=5 end=10 -index start=5 count=6
[-vmname <i>VMName</i> ]	仮想マシンにつけるマシン名を指定します。 作成する仮想マシンが1台の場合に指定可能です。
[-vms <i>VmsName</i> ]	作成先となる仮想マシンサーバのマシン名を指定します。
[-datastore <i>DatastoreName</i> ]	使用するデータストア名を指定します。

- -host, -count, -index はどれかを指定する必要があります。

#### [注]

- -index で指定するホストは、start と end (count) の間に使用中のホストがあるとエラーになります。

## [構文例]

```
>ssc create machine vmgroup1 -host host1
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 host2
VMS, datastore指定
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vms vms1 -datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -datastore datastore1
vm001 - vm010の仮想マシン作成
>ssc create machine vmgroup1 -host vm -index start=001 end=010 -vms vms1
-datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -host vm -index start=001 count=10 -vms vms1
-datastore datastore1
ホスト設定リストの順番で5番目から10番目の仮想マシンを作成
>ssc create machine vmgroup1 -index start=5 end=10
>ssc create machine vmgroup1 -index start=5 count=6
作成VM名指定
>ssc create machine vmgroup1 -host host1 -vmname vm1 -datastore datastore1
>ssc create machine vmgroup1 -count 1 -vmname vm1
```

## 3.2.6. テンプレートの作成

テンプレートの作成を行います。

### [構文]

```
ssc create template Path -name name -cost costValue -type <full | hw | diff | disk> [-image name] [-vmserver vmServer] [-datastore value] [-snapshot name] [-custominfo name] [-ostype <win | linux>] [-fullname value] [-orgname value] [-timezone value] [-productkey value] [-license mode=<perserver | perseat>] [users=value]
```

### [引数/オプション]

<i>Path</i> (必須)	対象仮想マシンまでのパスをフルパスで指定します。 //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100
-name <i>name</i> (必須)	作成するテンプレートの名称を指定します。
-cost <i>costValue</i> (必須)	作成するテンプレートのコスト値を指定します。
-type <full   hw   diff   disk> (必須)	作成するテンプレートのタイプを指定します。 指定には、以下を使用します。 full : full clone hw : HW Profile clone diff : Differential Clone disk : Disk clone
[-image <i>name</i> ]	作成するイメージの名称を指定します。 テンプレートのタイプが、Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
[-vmserver <i>vmServer</i> ]	作成先の仮想サーバを指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
[-datastore <i>value</i> ]	格納場所を指定します。 テンプレートのタイプが、Full Clone / Disk Clone / Differential Cloneの場合に指定できます。
[-snapshot <i>name</i> ]	スナップショット名を指定します。 テンプレートのタイプが、Differential Cloneの場合に指定できます。

<p>[-custominfo <i>name</i>]</p>	<p>作成する複製名を指定します。 既に同名の複製情報がある場合、その設定値を流用し、名称は、指定名+"_01"等を設定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合に指定できます。 ただし、作成元 仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効となります。</p>
<p>[-ostype &lt;win   linux&gt;]</p>	<p>OSタイプを指定します。 指定には、以下を使用します。 win : Windows OS系 linux : Linux OS系</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合に指定できます。 ただし、作成元仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効となります。</p>
<p>[-fullname <i>value</i>]</p>	<p>ユーザー名を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合で OSタイプにwinを指定した場合のみ指定できます。 ただし、作成元仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効となります。</p>
<p>[-orgname <i>value</i>]</p>	<p>組織名を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合で OSタイプにwinを指定した場合のみ指定できます。 ただし、作成元仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効となります。</p>
<p>[-timezone <i>value</i>]</p>	<p>タイムゾーンを指定します。(省略可能) 省略時はシステムに設定されたタイムゾーンになります。 タイムゾーンのコード、またはWebUIで表示されている文字列を指定します。</p> <p>sscコマンドリファレンスの参考資料を参照してください。 値は Microsoft Time Zone Index Values で既定されたものと同じです。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合で OSタイプにwinを指定した場合のみ指定できます。 ただし、作成元仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効となります。</p>
<p>[-productkey <i>value</i>]</p>	<p>プロダクトキーを指定します。(省略可能) xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx の形式で入力してください。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合で OSタイプにwinを指定した場合のみ指定できます。 ただし、作成元仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効となります。</p>
<p>[-license mode=&lt;perserver   perseat&gt; [users=<i>value</i>]]</p>	<p>ライセンスモードを指定します。 perserver : 同時接続サーバ数 perseat : 接続クライアント</p> <p>[users=<i>value</i>] perserver を指定時に、サーバ数を指定します。</p> <p>テンプレートのタイプが、Full Clone / Differential Clone の場合で OSタイプにwinを指定した場合のみ指定できます。 ただし、作成元仮想マシンのマネージャがVCの場合のみ有効</p>

**[構文例]**

```

・ Full Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -custominfo vm100_d -ostype win
-fullname nec -orgname 2CS -timezone 235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
-license mode=perserver users=5
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -custominfo vm100_d -ostype win
-fullname nec -orgname 2CS -timezone 235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
-license mode=perseat
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -custominfo vm100_d -ostype linux
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type full -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -custominfo vm100_d
・ HW Profile Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type hw
・ Differential Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -custominfo vm100_d -ostype win -fullname nec -orgname 2CS -timezone
235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perserver users=5
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -custominfo vm100_d -ostype win -fullname nec -orgname 2CS -timezone
235 -productkey xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx -license mode=perseat
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -custominfo vm100_d -ostype linux
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type diff -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01 -snapshot
snapshot01 -custominfo vm100_d
・ Disk Cloneの場合
>ssc create template //VC1/DataCenter1/VMServer1/vm100 -name vm100_t -cost 10
-type disk -image image01 -vmserver VMServer1 -datastore disk01

```

**[参考資料]**

以下に -timezoneで指定するコードを示します。  
Microsoft Time Zone Index Values

Index	Name of Time Zone	Time
0	Dateline Standard Time	(GMT-12:00) International Date Line West
1	Samoa Standard Time	(GMT-11:00) Midway Island, Samoa
2	Hawaiian Standard Time	(GMT-10:00) Hawaii
3	Alaskan Standard Time	(GMT-09:00) Alaska
4	Pacific Standard Time	(GMT-08:00) Pacific Time (US and Canada); Tijuana
10	Mountain Standard Time	(GMT-07:00) Mountain Time (US and Canada)
13	Mexico Standard Time 2	(GMT-07:00) Chihuahua, La Paz, Mazatlan
15	U.S. Mountain Standard Time	(GMT-07:00) Arizona
20	Central Standard Time	(GMT-06:00) Central Time (US and Canada)

25	Canada Central Standard Time	(GMT-06:00) Saskatchewan
30	Mexico Standard Time	(GMT-06:00) Guadalajara, Mexico City, Monterrey
33	Central America Standard Time	(GMT-06:00) Central America
35	Eastern Standard Time	(GMT-05:00) Eastern Time (US and Canada)
40	U.S. Eastern Standard Time	(GMT-05:00) Indiana (East)
45	S.A. Pacific Standard Time	(GMT-05:00) Bogota, Lima, Quito
50	Atlantic Standard Time	(GMT-04:00) Atlantic Time (Canada)
55	S.A. Western Standard Time	(GMT-04:00) Caracas, La Paz
56	Pacific S.A. Standard Time	(GMT-04:00) Santiago
60	Newfoundland and Labrador Standard Time	(GMT-03:30) Newfoundland and Labrador
65	E. South America Standard Time	(GMT-03:00) Brasilia
70	S.A. Eastern Standard Time	(GMT-03:00) Buenos Aires, Georgetown
73	Greenland Standard Time	(GMT-03:00) Greenland
75	Mid-Atlantic Standard Time	(GMT-02:00) Mid-Atlantic
80	Azores Standard Time	(GMT-01:00) Azores
83	Cape Verde Standard Time	(GMT-01:00) Cape Verde Islands
85	GMT Standard Time	(GMT) Greenwich Mean Time: Dublin, Edinburgh, Lisbon, London
90	Greenwich Standard Time	(GMT) Casablanca, Monrovia
95	Central Europe Standard Time	(GMT+01:00) Belgrade, Bratislava, Budapest, Ljubljana, Prague
100	Central European Standard Time	(GMT+01:00) Sarajevo, Skopje, Warsaw, Zagreb
105	Romance Standard Time	(GMT+01:00) Brussels, Copenhagen, Madrid, Paris
110	W. Europe Standard Time	(GMT+01:00) Amsterdam, Berlin, Bern, Rome, Stockholm, Vienna
113	W. Central Africa Standard Time	(GMT+01:00) West Central Africa
115	E. Europe Standard Time	(GMT+02:00) Bucharest
120	Egypt Standard Time	(GMT+02:00) Cairo
125	FLE Standard Time	(GMT+02:00) Helsinki, Kiev, Riga, Sofia, Tallinn, Vilnius
130	GTB Standard Time	(GMT+02:00) Athens, Istanbul, Minsk
135	Israel Standard Time	(GMT+02:00) Jerusalem
140	South Africa Standard Time	(GMT+02:00) Harare, Pretoria
145	Russian Standard Time	(GMT+03:00) Moscow, St. Petersburg, Volgograd
150	Arab Standard Time	(GMT+03:00) Kuwait, Riyadh
155	E. Africa Standard Time	(GMT+03:00) Nairobi
158	Arabic Standard Time	(GMT+03:00) Baghdad
160	Iran Standard Time	(GMT+03:30) Tehran
165	Arabian Standard Time	(GMT+04:00) Abu Dhabi, Muscat
170	Caucasus Standard Time	(GMT+04:00) Baku, Tbilisi, Yerevan
175	Transitional Islamic State of Afghanistan Standard Time	(GMT+04:30) Kabul
180	Ekaterinburg Standard Time	(GMT+05:00) Ekaterinburg
185	West Asia Standard Time	(GMT+05:00) Islamabad, Karachi, Tashkent
190	India Standard Time	(GMT+05:30) Chennai, Kolkata, Mumbai, New Delhi

193	Nepal Standard Time	(GMT+05:45) Kathmandu
195	Central Asia Standard Time	(GMT+06:00) Astana, Dhaka
200	Sri Lanka Standard Time	(GMT+06:00) Sri Jayawardenepura
201	N. Central Asia Standard Time	(GMT+06:00) Almaty, Novosibirsk
203	Myanmar Standard Time	(GMT+06:30) Yangon Rangoon
205	S.E. Asia Standard Time	(GMT+07:00) Bangkok, Hanoi, Jakarta
207	North Asia Standard Time	(GMT+07:00) Krasnoyarsk
210	China Standard Time	(GMT+08:00) Beijing, Chongqing, Hong Kong SAR, Urumqi
215	Singapore Standard Time	(GMT+08:00) Kuala Lumpur, Singapore
220	Taipei Standard Time	(GMT+08:00) Taipei
225	W. Australia Standard Time	(GMT+08:00) Perth
227	North Asia East Standard Time	(GMT+08:00) Irkutsk, Ulaanbaatar
230	Korea Standard Time	(GMT+09:00) Seoul
235	Tokyo Standard Time	(GMT+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo
240	Yakutsk Standard Time	(GMT+09:00) Yakutsk
245	A.U.S. Central Standard Time	(GMT+09:30) Darwin
250	Cen. Australia Standard Time	(GMT+09:30) Adelaide
255	A.U.S. Eastern Standard Time	(GMT+10:00) Canberra, Melbourne, Sydney
260	E. Australia Standard Time	(GMT+10:00) Brisbane
265	Tasmania Standard Time	(GMT+10:00) Hobart
270	Vladivostok Standard Time	(GMT+10:00) Vladivostok
275	West Pacific Standard Time	(GMT+10:00) Guam, Port Moresby
280	Central Pacific Standard Time	(GMT+11:00) Magadan, Solomon Islands, New Caledonia
285	Fiji Islands Standard Time	(GMT+12:00) Fiji Islands, Kamchatka, Marshall Islands
290	New Zealand Standard Time	(GMT+12:00) Auckland, Wellington
300	Tonga Standard Time	(GMT+13:00) Nuku'alofa

### 3.2.7. 再構成

仮想マシンの再構成を行います。

#### [構文]

```
ssc reconfigure machine GroupFullPath [-target Name[...]] [<-reconstruct |
-revert>] [-concurrent value] [-interval value] [-turnoff <0 | 1>] [-disksize
size]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupFullPath</i> (必須)	[運用] ビューのグループのパスを指定します。 カテゴリの指定はできません。  例: /カテゴリ/グループ/
[-target <i>Name</i> [...]]	ホスト名を指定します。(複数指定可能) 省略した場合、指定したグループで稼働中のすべてのマシンが 対象となります。
[-reconstruct]	指定のグループ、モデル、ホスト設定に指定されている 優先度の高いテンプレート、またはイメージの状態に再構築します。
[-revert]	差分ディスクの破棄を行います。



<code>[-concurrent value]</code>	最大同時実行数を指定します。(既定値は1) 「1」から「100」の範囲で指定します。
<code>[-interval value]</code>	実行間隔を指定します。(既定値は0) 「0」秒から「99999」秒の範囲で指定します。
<code>[-turnoff &lt;0   1&gt;]</code>	実行条件として電源状態を指定します。(既定値は1) 0 : 電源状態を確認せず実行します。 1 : 電源状態がオフのみ対象とします。
<code>[-disksize size]</code>	実行条件としてディスク使用容量 (MB) を指定する。 ディスク使用容量が指定容量以上の仮想マシンを対象とする。 「10」MBから「99999999」MBの範囲で指定します。

- `-reconstruct`と `-revert` は同時指定できません。
- `-reconstruct`, `-revert`の両方を省略した場合は、`-reconstruct`を指定時と同じです。

### [構文例]

```

* Reconstructの実行
>ssc reconfigure machine operation://vmgroup1 -reconstruct
>ssc reconfigure machine operation://vmgroup1 -target host1 host2
* Reconstructの実行(コマンドの別名指定)
>ssc reconstruct machine operation://vmgroup1 -target host1 host2
* Revertの実行
>ssc reconfigure machine operation://vmgroup1 -revert
* 実行条件の指定
>ssc reconfigure machine operation://vmgroup1 -target host1 -concurrent 2
-interval 500 -turnoff 1 -disksize 2048

```

## 3.2.8. スナップショットの作成

スナップショットを作成します。

### [構文]

```
ssc create snapshot SnapshotName Path [-vm name[...]]
```

### [引数/オプション]

<i>SnapshotName</i> (必須)	作成するスナップショットの名前を指定します。
<i>Path</i> (必須)	仮想マシンサーバ、または仮想マシンまでのパスを指定します。 virtual://vc1/dc1/esx1 virtual://vc1/dc1/esx1/vm1
<code>[-vm name[...]]</code>	<i>Path</i> に仮想マシンサーバを指定している場合に有効です。 指定した仮想マシンサーバに所属する仮想マシンの名前を指定します。 省略時は、仮想マシンサーバに所属するすべての仮想マシンが対象となります。 仮想マシンは、複数指定することが可能です。

### [注]

- スナップショットを作成する仮想マシンが複数の場合のみ、進捗ログが表示されます。

## [構文例]

esx1所属の仮想マシンすべてを対象にする場合

```
>ssc create snapshot snapshot1 virtual://vc1/dc1/esx1
```

esx1所属の仮想マシンで、vm1, vm2を対象にする場合

```
>ssc create snapshot snapshot1 virtual://vc1/dc1/esx1 -vm vm1 vm2
```

esx1所属の仮想マシンvm1を対象にする場合

```
>ssc create snapshot snapshot1 virtual://vc1/dc1/esx1/vm1
```

```
>ssc create snapshot snapshot1 virtual://vc1/dc1/esx1 -vm vm1
```

## 3.3. 配置制約

### 3.3.1. 配置制約の設定

仮想マシンの配置制約を設定します。

#### [構文]

```
ssc vmop set-rule GroupName SourceHostName TargetHostName [-type pinned] [-o force] [-priority n]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を設定するVMサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
<i>SourceHostName</i> (必須)	配置制約を設定する元のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)
<i>TargetHostName</i> (必須)	配置制約を設定する先のホスト名を指定します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト) ホスト名のみを指定した場合、 <i>GroupName</i> のグループに所属するホストとみなされます。
[-type pinned]	配置制約の種別を指定します。 「pinned」: <i>SourceHostName</i> の仮想マシンを <i>TargetHostName</i> の仮想マシンサーバに配置します。 -type を省略した場合、「pinned」が指定されます。
[-o force]	配置制約を強制します。
[-priority <i>n</i> ]	優先度を指定します。 値域は $1 \leq n \leq 4$ 省略時、1(最高)指定となります。

- 既に設定済み (*GroupName*、*SourceHostName*、*TargetHostName*が同じ) の場合、上書きしません。

#### [構文例]

```
>ssc vmop set-rule Category1/VmsGroup1/VmsModel01 VmGroup/VmHost001  
Category1/VmsGroup1/VmsHost001  
>ssc vmop set-rule Category1/VmsGroup1/VmsModel01 VmGroup/VmHost001  
Category1/VmsGroup1/VmsHost001 -type pinned  
>ssc vmop set-rule Category1/VmsGroup1/VmsModel01 VmGroup/VmHost002  
Category1/VmsGroup1/VmsHost002 -type pinned -o force  
>ssc vmop set-rule Category1/VmsGroup1/VmsModel01 VmGroup/VmHost002  
Category1/VmsGroup1/VmsHost002 -type pinned -priority 2
```

### 3.3.2. 配置制約の削除

仮想マシンの配置制約を削除します。

#### [構文]

```
ssc vmop delete-rule GroupName [SourceHostName] [TargetHostName] [-all]
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を削除するVMサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[ <i>SourceHostName</i> ]	対象となる配置制約元のホスト名 (仮想マシン)を指定します。 ただし、"-all" 指定時以外は省略することはできません。 "-all" 指定時は、対象となる制約設定元のホスト名 (仮想マシン) を指定します。所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)
[ <i>TargetHostName</i> ]	対象となる制約設定先のホスト名 (仮想マシンサーバ) を指定します。 "-all" 指定時は、 <i>SourceHostName</i> を省略します。 所属するグループを含めたパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/ホスト、グループ/ホスト)
[-all]	<i>GroupName</i> のみ指定した場合、VMサーバモデルに関連付いている すべての配置制約を削除します。 <i>GroupName</i> 、 <i>SourceHostName</i> (仮想マシン)、または <i>TargetHostName</i> (仮想マシンサーバ)を指定した場合、VMサーバモデルとホストに関連 付いているすべての配置制約を削除します。

#### [構文例]

```
>ssc vmop delete-rule Category1/Group1/VMSModel01 VMGroup/VMHost001  
Category1/Group1/VMSHost001  
>ssc vmop delete-rule Category1/Group1/VMSModel01 VMGroup/VMHost002 -all  
>ssc vmop delete-rule Category1/Group1/VMSModel01 VMSHost001 -all  
>ssc vmop delete-rule Category1/Group1/VMSModel01 -all
```

### 3.3.3. 配置制約の有効化

仮想マシンの配置制約設定を有効にします。

#### [構文]

```
ssc vmop enable-rule GroupName
```

#### [引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を有効とするVMサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
--------------------------	---

#### [構文例]

```
>ssc vmop enable-rule VMS-Group/VMS-Model1
```

### 3.3.4. 配置制約の無効化

仮想マシンの配置制約設定を無効にします。

[構文]

```
ssc vmop disable-rule GroupName
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約を無効にするVMサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
--------------------------	---

[構文例]

```
>ssc vmop disable-rule VMS-Group/VMS-Model
```

### 3.3.5. 配置制約に従った配置

仮想マシンを配置制約に従って配置します。

[構文]

```
ssc vmop apply-rule GroupName [TargetHostName]
```

[引数/オプション]

<i>GroupName</i> (必須)	配置制約の対象となる仮想マシンサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[ <i>TargetHostName</i> ]	配置制約の設定先のホスト名を指定します。 対象の仮想マシンサーバが稼働している必要があります。

[構文例]

```
>ssc vmop apply-rule Category/Group1/Model1 Host1
```

### 3.3.6. 配置制約の表示

仮想マシンの配置制約設定を表示します。

[構文]

```
ssc vmop show-rule [GroupName] [-setting]
```

[引数/オプション]

[ <i>GroupName</i> ]	表示する配置制約のVMサーバモデルを指定します。 モデルまでのパスを指定します。 <i>GroupName</i> を省略した場合、 配置制約が設定されている全モデルのモデル名のみ表示します。 (例: カテゴリ/グループ/モデル、グループ/モデル)
[-setting]	情報表示形式で表示します。このオプションを省略した場合、 CSV形式 (1行単位のカンマ区切り) で表示します。

## [構文例]

```
>ssc vmop show-rule
>ssc vmop show-rule -setting
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01 -setting
```

## [表示例]

```
>ssc vmop show-rule -setting
  GroupName : //test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01      Restriction : Enabled
  GroupName : //test1/test2/vmsgroup2/vmsmodel1      Restriction : Disabled
>ssc vmop show-rule
#GroupName, Restriction
//test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01, Enabled
//test1/test2/vmsgroup2/vmsmodel1, Disabled
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01 -setting
* GroupName      : test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01
* Restriction    : Enabled
* SourceHost
  HostName       : vmhost01
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmgroup002
  MachineName    : vm100
* TargetHost
  HostName       : vmshost01
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup
  MachineName    : Not Running
* RestrictionType : Pinned
* RestrictionPriority : 1
* RestrictionFlag  : None
-----
* SourceHost
  HostName       : vmhost02
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmgroup002
  MachineName    : vm200
* TargetHost
  HostName       : vmshost01
  GroupName      : ¥¥test1¥test2¥vmsgroup
  MachineName    : Not Running
* RestrictionType : Pinned
* RestrictionPriority : 2
* RestrictionFlag  : None
-----
>ssc vmop show-rule test1/test2/vmsgroup/vmsmodel01
#GroupName, Restriction, SourceHost, TargetHost, Type, Priority, Flag
vmsmodel01, Enabled, vmhost01, vmshost01, Pinned, 1, None
vmsmodel01, Enabled, vmhost02, vmshost01, Pinned, 2, None
```

## 3.4. データストア

### 3.4.1. データストアの表示

データストア一覧を表示します。  
csv 形式（カンマ区切りで1行単位）で出力します。

#### [構文]

```
ssc show datastore [DatastoreName <-vm | -template>] [-path Path] [-vertical]
```

#### [引数/オプション]

[ <i>DatastoreName</i> ]	指定したデータストアの詳細情報を表示します。
[-vm]	指定したデータストアに配置されている仮想マシンの情報を表示します。
[-template]	指定したデータストアに配置されているテンプレートの情報を表示します。
[-path <i>Path</i> ]	データストアが所属するデータセンタまたは仮想マシンサーバを指定します。
[-vertical]	表示方法を指定します。(形式 = 項目名 : 値) 省略した場合、CSV形式で表示します。

#### [構文例]

```
>ssc show datastore  
>ssc show datastore -path VC1/DC  
>ssc show datastore -path VC1/DC/VMServer  
>ssc show datastore Storage1 -vertical  
>ssc show datastore Storage1 -vm  
>ssc show datastore Storage1 -template
```

#### [表示例]

```
>ssc show datastore  
#DatastoreName,DatastoreSize (GB),DatastoreUsage (GB),DatastoreFree (GB),Datastore  
"iStorageS500", "265.8", "261.2", "4.5", "98", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA", "1  
"iStorageS500", "265.8", "217.7", "48.1", "81", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterB", "
```

```
>ssc show datastore -path  
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA"  
#DatastoreName,DatastoreSize (GB),DatastoreUsage (GB),DatastoreFree (GB),Datastore  
"iStorageS500", "265.8", "261.2", "4.5", "98", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA", "1
```

```
>ssc show datastore iStorageS500 -path  
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA"  
[Datastore]  
#DatastoreName,DatastoreSize (GB),DatastoreUsage (GB),DatastoreFree (GB),Datastore  
"iStorageS500", "265.8", "261.2", "4.5", "98", "virtual:/192.168.10.220/dataCenterA", "1  
[Machine]  
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, Summa  
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "  
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50  
[Template]  
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLocation, I  
"FullCloneTemplate", "2010/07/09 15:16:13", "1", "Template, FullClone", "192.168.220.1
```

```
>ssc show datastore "iStorageS500" -path
"virtual:/192.168.10.220/dataCenterA" -vm
[Machine]
#MachineName, MachineType, Uuid, MacAddress, ProductName, ModelName, ManagedStatus, Summa
"MasterMachine", "VMware, Virtual Machine", "42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7", "
"MasterVM", "VMware, Virtual Machine", "42049b63-168e-86d0-83c8-e57319cb622d", "00:50
```

```
>ssc show datastore "Storage1 (1)" -path
"virtual:/192.168.10.171/New Datacenter/192.168.10.175" -template
#SoftwareName, CreateTime, SoftwareCost, SoftwareType, VMServerName, SoftwareLocation, I
"FullCloneTemplate", "2010/07/09 15:16:13", "1", "Template, FullClone", "192.168.220.1
```

```
>ssc show datastore Storage1 -vertical
[Datastore-01]
DatastoreName      : iStorageS500
DatastoreSize (GB) : 265.8
DatastoreUsage (GB) : 261.2
DatastoreFree (GB) : 4.5
DatastoreUtilization (%) : 98
DataCenterPath     : virtual:/192.168.10.220/dataCenterA
VmsManagerName     : 192.168.220.142, 192.168.220.148
[Machine-01]
MachineName       : MasterMachine
MachineType       : VMware, Virtual Machine
Uuid              : 42043949-9fde-6cb5-297c-bc5cd39a6de7
MacAddress        : 00:50:56:84:78:F6
ProductName       : VMware Virtual Machine 7
:
:
IPAddress         :
MachineSubType    : MasterVM
Cost              : 0
MemorySize (MB)  :
Processor         :
CPUCount         :
CPULimit (MB)    :
CPUShare         :
DiskUsage (GB)   :
[Machine-02]
:
:
:
[Template-01]
SoftwareName      : FullCloneTemplate
CreateTime        : 2010/07/09 15:16:13
SoftwareCost      : 1
SoftwareType      : Template, FullClone
VMServerName     : 192.168.220.142
SoftwareLocation  : iStorageS500
ImageName         : FullCloneTemplate
DiskSize (MB)    : 1024
Description       :
```



## 4. 保守コマンド

本章では、SigmaSystemCenter の保守に関するコマンドについて記載します。

### 4.1. 運用ログ

#### 4.1.1. 運用ログの表示

運用ログを表示します。

CSV形式（カンマ区切りで1行単位）で出力します。

-all指定時を除き、表示できる件数は、最大100件です。

全パラメータを省略した場合は、ログの最新日時から100件が表示されます。

-allを指定した場合、データベースに残っているすべてのログ情報を表示します。

##### [構文]

```
ssc show log [-date yyyy/mm/dd[ hh:mm:ss]] [-days Number] [-level LogLevel]
[-all]
```

##### [引数/オプション]

<code>[-date yyyy/mm/dd[ hh:mm:ss]]</code>	表示対象となる基点の日時を指定します。 表示対象は、最大100件です。 年月日は省略することはできません。 時間（時分秒）を省略すると、00:00:00が設定されます。 -dateを省略すると、運用ログの最新日時が基点となります。
<code>[-days Number]</code>	表示対象となる日数を指定します。 正の値は、基点となる-dateの日時以後の日数分となります。 負の値は、基点となる-dateの日時以前の日数分となります。 0は、-1となります。 既定値は、(-3) です。
<code>[-level LogLevel]</code>	ログレベルを指定します。指定したログレベル以上の運用ログを表示します。 ログレベルは「fatal」、「error」、「warning」、「normal」、 「detail」、「trace」の いずれか1つを指定できます。
<code>[-all]</code>	すべての運用ログを表示します。

##### [構文例]

```
>ssc show log
>ssc show log -date 20XX/XX/XX
>ssc show log -days -3
>ssc show log -level normal
```

**[オプションの組み合わせ]**

オプション	組み合わせ	概要
[-all]	-	運用ログをすべて表示します
[-date]	任意	"yyyy/MM/dd (hh/mm/ss)"形式で指定可能 hh:mm:ss省略時は00:00:00になります。 オプション省略時は現在日時
[-days]	任意	省略時は現在日時よりshow logは-3日で表示します。
[-level]	任意	Fatal,Error,Warning,Normal,Detail,Traceを指定し、絞り込みます。 省略時はNormalになります。

## 4.2. ポリシー

### 4.2.1. ポリシーをエクスポートする

ポリシー情報をXML ファイルに出力します。

#### [構文]

```
ssc export policy FileName PolicyName... [-template]
```

#### [引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	ポリシー情報を出力するXMLファイル名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレートデータを出力するXMLファイル名を指定します。ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲む必要があります。 ファイル名のみ指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象になります。パスを指定せずに、ファイル名のみ指定した場合、コマンドを実行したフォルダにファイルを作成します。
<i>PolicyName...</i> (必須)	対象のポリシー名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレート名を指定します。
[-template]	アクションテンプレートデータを出力します。

#### [構文例]

```
>ssc export policy C:¥work¥policy1.xml policyA1  
>ssc export policy C:¥work¥policy2.xml "policy B1" "policy B2"  
>ssc export policy "C:¥Documents and Settings¥users¥template.xml"  
template1 template2 -template
```

### 4.2.2. ポリシーをインポートする

XML ファイルからポリシー情報を取り込みます。

#### [構文]

```
ssc import policy FileName [-template]
```

#### [引数/オプション]

<i>FileName</i> (必須)	インポートするポリシー情報のXMLファイル名を指定します。 [-template] を指定した場合、アクションテンプレートデータのXMLファイル名を指定します。 ファイル名のパスに空白文字を含む場合、二重引用符 (") で囲む必要があります。ファイル名のみを指定した場合、本コマンド実行時のカレントフォルダのファイルが対象になります。
[-template]	XMLファイルからアクションテンプレートデータを取り込みます。

#### [構文例]

```
>ssc import policy C:¥work¥policy1.xml  
>ssc import policy "C:¥Documents and Settings¥users¥template.xml" -template
```

## 4.3. メンテナンス

### 4.3.1. 構成情報のメンテナンス

構成情報データベースのメンテナンスを行います。  
変更を行う場合は、SystemProvisioningを停止することを推奨します。

#### [構文]

```
ssc maintenance cmdb [-recoverymodel <simple | full>] [-defrag Average]  
[-shrinkdata]  
[-shrinklog] [-all] [-table]
```

#### [引数/オプション]

[-recoverymodel]	データベースの復旧モデルを設定します。 「simple」：単純復旧モデル(推奨) 「full」：完全復旧モデル
[-defrag <i>Average</i> ]	指定された断片率以上のテーブルの断片化を解消します。 <i>Average</i> には、「0」から「99」までの断片率を指定します。 すべてのテーブルに対して行なう場合は0を指定してください。
[-shrinkdata]	データファイルのサイズを圧縮します。
[-shrinklog]	ログファイルのサイズを圧縮します。 ログファイルのサイズが閾値 (300MB以上) を超えている場合に実行してください
[-all]	データベース情報の詳細を表示します。(ログファイルなどのファイルパスなど)
[-tbl]	-all の後で対で指定された場合に、テーブルの断片化率もあわせて表示します。

-recoverymodel、-defrag、-shrinkdata、-shrinklog は同時に指定できません。  
オプションを指定しない場合、構成情報データベースの情報を表示します。

#### [構文例]

```
>ssc maintenance cmdb  
>ssc maintenance cmdb -recoverymodel simple  
>ssc maintenance cmdb -defrag 50  
>ssc maintenance cmdb -shrinkdata  
>ssc maintenance cmdb -shrinklog
```

#### [表示例]

##### • オプション指定なし

```
>ssc maintenance cmdb  
[Cmdb Information]  
Datafile Name : PVMINF  
Allocate Size : 142.19 MB  
Secondary Name : pvminf_2  
Allocate Size : 40.00 MB  
Logfile Name : PVMINF_log  
Allocate Size : 83.88 MB  
RecoveryModeType : Simple
```

• -all

```
> ssc maintenance cmdb -all
[Cmdb Information]
#----
Database Name      : pvminf
Datafile Name      : PVMINF
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 142.19 MB
                  Unallocated Size : 122.75 MB
                  Unallocated Ratio : 86.33 %
Secondary Name     : pvminf_2
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 40.00 MB
                  Unallocated Size : 0.44 MB
                  Unallocated Ratio : 1.09 %
Logfile Name       : PVMINF_log
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 83.88 MB
                  Unallocated Size : 75.08 MB
                  Unallocated Ratio : 89.52 %
#----
Database Name      : tempdb
Datafile Name      : tempdev
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 2.19 MB
                  Unallocated Size : 0.81 MB
                  Unallocated Ratio : 37.14 %
Logfile Name       : templog
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 0.50 MB
                  Unallocated Size : 0.25 MB
                  Unallocated Ratio : 49.60 %
RecoveryModeType   : Simple
```

• -all -tbl

```
> ssc maintenance cmdb -all -tbl
[Cmdb Information]
#----
Database Name      : pvminf
Datafile Name      : PVMINF
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 142.19 MB
                  Unallocated Size : 122.75 MB
                  Unallocated Ratio : 86.33 %
Secondary Name     : pvminf_2
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 40.00 MB
                  Unallocated Size : 0.44 MB
                  Unallocated Ratio : 1.09 %
Logfile Name       : PVMINF_log
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 83.88 MB
                  Unallocated Size : 75.08 MB
                  Unallocated Ratio : 89.52 %
```

```

#----
Database Name      : tempdb
Datafile Name     : tempdev
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 2.19 MB
                  Unallocated Size : 0.81 MB
                  Unallocated Ratio : 37.14 %
Logfile Name      : templog
                  Location      : c:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\
                  Allocate Size  : 0.50 MB
                  Unallocated Size : 0.25 MB
                  Unallocated Ratio : 49.60 %
RecoveryModeType  : Simple
[Cmdb Table Fragmentation Average]

```

Table Name	Fragmentation Average
TBL_EventHistory	99.93
TBL_EventAction	99.23
TBL_Parts	98.87
TBL_ManagementLogHistory	98.50
TBL_PartsGroupRelation	95.51
TBL_DiskPartition	91.67
TBL_PartsGroup	91.30
TBL_DiskVolume	90.00
TBL_Machine	89.61
TBL_ManagerRelation	86.41
TBL_PhysicalGroupRelation	83.33
TBL_Scenario	80.00
TBL_PolicySetting	75.00
TBL_DeployHistory	75.00
TBL_DevicePort	66.67
TBL_PolicyParameters	66.67
TBL_Manager	66.67
TBL_DiskControllerRelation	66.67
TBL_ScenarioRelation	50.00
TBL_PolicyAction	50.00
TBL_DiskController	27.27
TBL_ExtendedParameter	22.22
TBL_Acl	0.00
TBL_InstalledSoftware	0.00
TBL_ComputerSystemProfile	0.00
TBL_AccessControl	0.00
TBL_NetworkDeviceRelation	0.00
TBL_DatabaseVersion	0.00
TBL_DeviceRouting	0.00
TBL_RoutingRelation	0.00
TBL_ComputerSystemProfileRelation	0.00
TBL_Protocol	0.00
TBL_DomainDefinition	0.00
TBL_SmartGroupCondition	0.00
TBL_VirtualNetworkDefinition	0.00
TBL_NameServerDefinition	0.00
TBL_VolumeGroup	0.00
TBL_Policy	0.00
TBL_MachineSettings	0.00

TBL_GroupRelation	0.00
TBL_Reservation	0.00
TBL_CmdbConvertLog	0.00
TBL_Duplicate	0.00
TBL_VolumeGroupRelation	0.00
TBL_LogicalDiskRelation	0.00
TBL_PolicyRelation	0.00
TBL_PoolMachineRelation	0.00
TBL_DiskVolumeRelation	0.00
TBL_SensorGroup	0.00
TBL_ScenarioImage	0.00
TBL_DiskPartitionRelation	0.00
TBL_Sensor	0.00
TBL_GeneralParameter	0.00
TBL_PhysicalGroup	0.00
TBL_License	0.00
TBL_NetworkDevice	0.00
TBL_Tag	0.00
TBL_LoadBalancerGroup	0.00
TBL_DeviceVlan	0.00
TBL_DeviceVlanRelation	0.00
TBL_ScenarioImageRelation	0.00
TBL_EventActionParameter	0.00
TBL_PortRelation	0.00
TBL_VlanGroup	0.00
TBL_ResourceAllocationBase	0.00
TBL_NicTeaming	0.00
TBL_NicTeamingRelation	0.00
TBL_AclRelation	0.00
TBL_ServerGroup	0.00
TBL_NetworkProfile	0.00
TBL_LoadBalancerGroupRelation	0.00
TBL_LinkAggregation	0.00
TBL_PlacementRestriction	0.00
TBL_ServerDefinition	0.00
TBL_LinkAggregationRelation	0.00
TBL_StorageProfile	0.00
TBL_AccessLink	0.00
TBL_DiskArray	0.00
TBL_IpAddressDefinition	0.00
TBL_MachineAccount	0.00
TBL_UserAccount	0.00

### 4.3.2. 配布履歴の削除

ソフトウェアの配布履歴を削除します。  
最新の配布履歴は残ります。

#### [構文]

```
ssc delete history <[-all] | [-path Path]>
```

#### [引数/オプション]

[-all]	すべてのマシンが対象です。
[-path <i>Path</i> ]	対象のフルパスを指定します。 View Type を省略した場合 [運用] ビュー (operation:) として扱います。  例: グループ指定の場合 Category/Group ホスト指定の場合 Category/Group/Host [リソース] ビューでのマシン指定の場合 resource://MachineGroup/Machine-A

#### [構文例]

```
>ssc delete history Category/Group  
>ssc delete history operation://Category/Group/Host  
>ssc delete history resource://MachineGroup/Machine-A
```

### 4.3.3. マシンステータスの更新

マシンのステータスを指定内容で更新します。

#### [構文]

```
ssc set-machine-status mode <-name Machine... | -path Path... | -uuid UUID... |  
-mac MAC...>
```

#### [引数/オプション]

<i>mode</i> (必須)	設定するステータスを指定します。 複数を組み合わせて設定することが可能です。 ( )内は直前のパラメータの省略記法です。 先頭に +, - をつけることで設定と解除を意味します。 省略した場合は、+ の意味となります。  + : 設定します。 - : 解除します。  maint(m) : メンテナンスモード -error(-e) : Job実行結果のクリア(+は無効) degrade(d) : 故障状態(一部故障) fault(f) : 故障状態(故障) resethw(r) : 故障状態(一部故障、故障)のクリア(+は無効)
<-name <i>Machine...</i>   -path <i>Path...</i>   -uuid <i>UUID...</i>   -mac <i>MAC...</i> > (必須)	設定する対象を指定します。 -name, -path, -uuid, -macはいずれか1つを指定する必要があります。 指定する対象は複数指定が可能です。



```
-name : マシンの名称で指定します。
-path : 対象までのパスを指定します。
      ・各ビューのマシンまでのパス
      ・リソースビューでのグループ、またはラックのパス
      ・運用ビューでのグループのパス
-uuid  : マシンのUUIDで指定します。
-mac   : マシンのプライマリMACアドレスで指定します。
```

#### [注]

- -degrade は一部故障状態の場合に、-faultは、故障の場合に正常にします。
- 状態にかかわらず正常にしたい場合は、resethw を指定してください。
- resethw と fault、-maint と +maint など設定 / 解除を同時に指定することはできません。
- -path指定時、ビューを指定しない場合は、[リソース] ビューでの指定と同じになります。

#### [構文例]

```
1) メンテナンスモードを設定し、故障状態に設定する。
>ssc set-machine-status +m +f -path resource://vmgroup/vms001
2) メンテナンスモードを解除、ジョブ実行結果を解除と故障状態を解除する。
>ssc set-machine-status -m -e r -name machine1 machine2
```